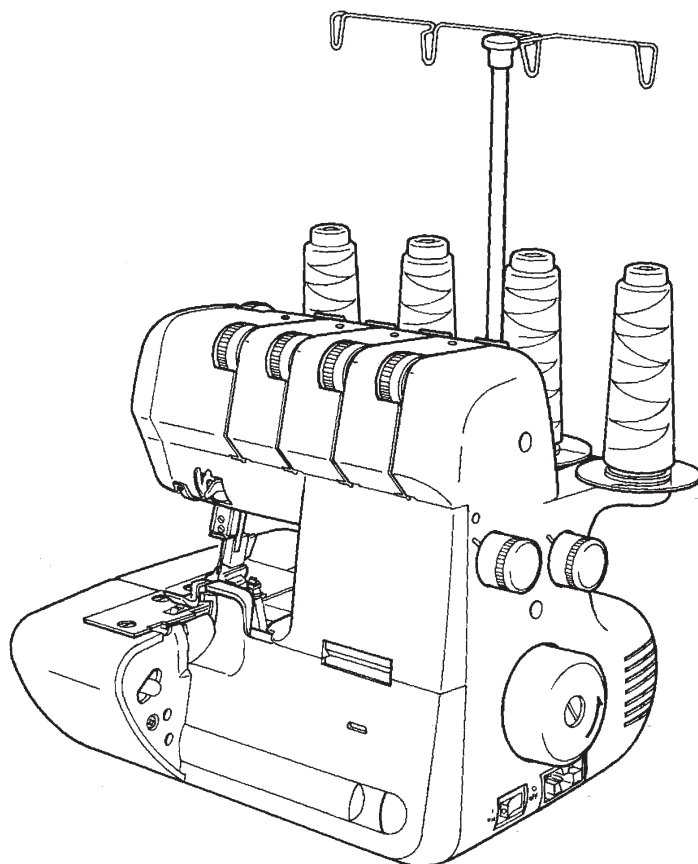




JAGUAR



ロックミシン FJ-888DW

★ご使用前にこの『取扱説明書』を十分お読みください。

★この『取扱説明書』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

取扱説明書

= 安全上の注意 =






- ◎ご使用前に、この『安全上の注意』をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

絵表示について

この『安全上の注意』では、使用者が製品を安全に使用出来るように、誤った取り扱いをする事によって生じる内容を次のような絵表示によって区分しています。いずれも重要な内容ですので必ず守ってください。

絵表示の例



-  警告：取り扱いを誤った場合、人が死亡または重傷を負う危険が生じる事が想定される内容を示しています。
-  注意：取り扱いを誤った場合、人がケガをしたり、物的損傷が発生したりする恐れがある内容を示しています。
-  記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が示されています。
-  記号は使用者の行為に注意を呼びかける内容であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が示されています。
-  記号は使用者の行為を指示強制したりする内容であることを告げるものです。図の中に具体的な指示内容が示されています。

警告

感電、火災の恐れがあります

⚠️ 注意

感電、火災、ケガの原因となります

 <p>禁止</p> <p>ミシンには正規の部品（針・押え等）をご使用ください。</p>	 <p>注意</p> <p>ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの高容量の電気製品のご使用はお控えください。ミシンの動作が不正確になる場合があります。</p>
 <p>注意</p> <p>最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始めてください。</p>	 <p>注意</p> <p>お子様のご使用になるときやお子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。</p>
 <p>注意</p> <p>ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、ルーパー、メスなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。指が挟まる、針が刺さるなどのケガの原因になります。</p>	<p>以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 針、針板、押え、アタッチメント、メスを交換するとき • 針糸、ルーパー糸をセットするとき • ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください） • 『取扱説明書』に記載のあるミシンのお手入れを行うとき
 <p>禁止</p> <p>曲がった針はご使用にならないでください。</p>	 <p>禁止</p> <p>ミシンを動かすときは、フロントカバー、メスユニットなどのカバー類を閉じてください。</p>
 <p>禁止</p> <p>縫うときは布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。指が挟まる、針が刺さるなどのケガの原因になります。</p>	 <p>注意</p> <p>業務用としてのご使用はお控えください。過負荷による故障の原因になります。</p>
 <p>禁止</p> <p>お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。</p>	 <p>注意</p> <p>ミシンに以下の異常があるときはすみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店または販売元で点検・修理・調整をお受けください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正常に作動しないとき • 水にぬれたとき • 落下などにより破損したとき • 電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなったとき • 異常な音やにおいがするとき
 <p>注意</p> <p>最初にミシンを使用するときは、押えの下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。</p>	 <p>注意</p> <p>直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は5～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。</p>
 <p>注意</p> <p>針及び針止めの下に指をいれないでください。ケガをする恐れがあります。</p>	

※ 製品のデザイン、仕様は改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

も く じ

1. ご使用になる前に

各部の名称.....	4
付属品.....	5
縫い始める前に行うこと.....	6
フットコントローラーのセット	
電源のつなぎかた	
フロントカバーの開きかた	
メスユニットの開きかた	
糸案内棒のセット.....	7
糸ごま押え.....	8
糸ごまホルダーと糸ごまクッション.....	8
糸ごまネット.....	8
ごみ受け.....	9
布ガイドゲージ.....	9
糸切り.....	9
押えの取りかえかた.....	9
針と糸と布の使いかた.....	10
針の取りかえかた.....	10

2. さあ縫ってみましょう

4本の糸かけをしてみましょう.....	11
糸かけの準備	
下ルーパー糸かけ.....	11
上ルーパー糸かけ.....	12
右針糸かけ、左針糸かけ.....	13
知っておくと便利なこと.....	14
糸のかえかた、針糸の便利な切りかた	
試し縫い.....	15
ダイヤル機能の紹介	
糸調子ダイヤル.....	16
縫い目ダイヤル.....	16
かがり幅ダイヤル.....	16

差動送りダイヤル.....	17
押え圧力ダイヤル.....	17
いろいろな縫いかたとミシンのセット... 18~19	
きれいな縫い目にする調整方法.....	20
1本針3本糸縫い.....	21
1本針2本糸縫い.....	21
細幅縫い、巻き縫い、ピコ縫い.....	22
ギャザー縫い.....	23
ピンタック縫い.....	23
飾りブレード縫い.....	23
芯ひも入り（強化）縁かがり縫い.....	24
極厚地や重ね縫いをする場合.....	24
基本的なテクニック.....	25~26
外角縫いの手順、内角縫い、	
カーブ縫い、縫い目の解きかた、	
縫い目のとじかた	

3. ミシンの手入れ

可動メスの取りかえかた.....	27
可動メスの解放方法.....	27
電球の取りかえかた.....	27
掃除と注油.....	28

4. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう..... 29

5. 押えについて 30~32

6. 別売り付属品 33

アフターサービス 34

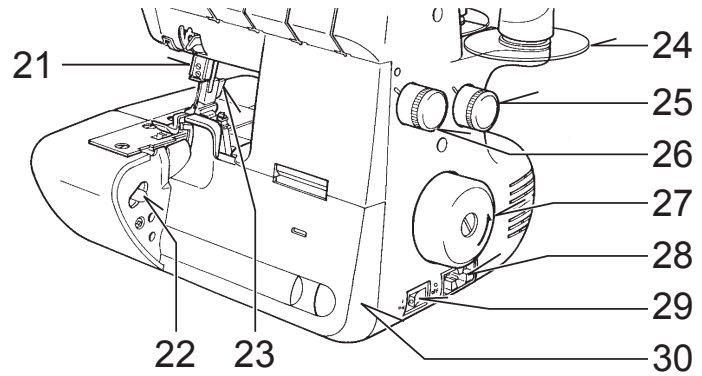
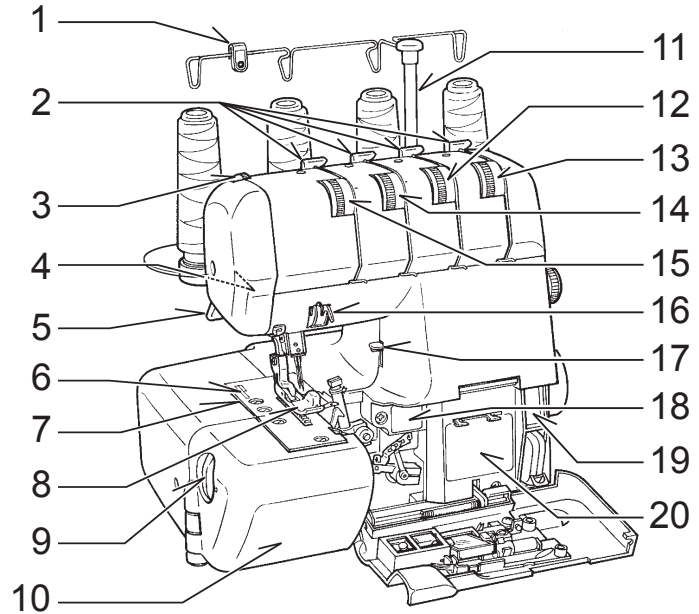
ミシンの仕様

項 目	仕 様
使 用 糸 数	4/3/2本糸
か が り 幅	6mm (左)、3.8mm (右)
使 用 針	BL×4, HAX1SP, HAX1 (130/705H)
縫 い 目 長 さ	1-5mm
縫 い 速 度	1300針/分
大 き さ	幅337mm×高さ315mm×奥行249mm
質 量	8.6kg

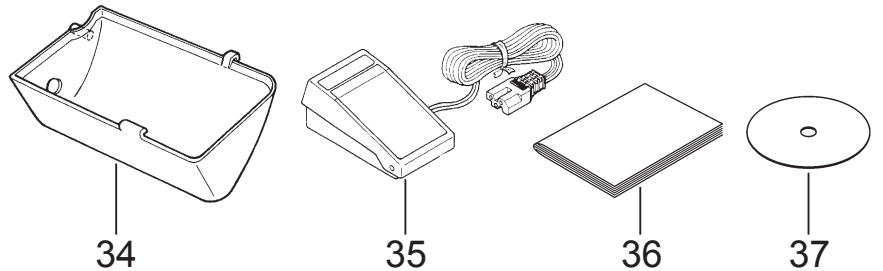
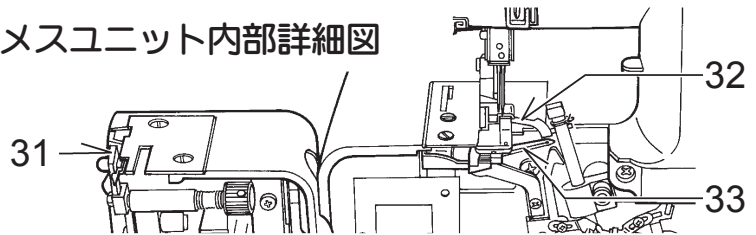
1. ご使用になる前に ……

各部の名称

1. 芯ひも案内
2. 糸案内
3. 押え圧力ダイヤル
4. 電球
5. 押え上げ
6. 糸切り
7. 針板
- ※ お使いのミシンと仕様が異なる場合があります。
8. 押え
9. かがり幅ダイヤル
10. メスユニット
11. 糸案内棒
12. 上ルーパー糸調子ダイヤル
13. 下ルーパー糸調子ダイヤル
14. 右針糸調子ダイヤル
15. 左針糸調子ダイヤル
16. 糸案内
17. 糸切りレバー
18. 2本糸ルーパー取付説明図
19. 針山
20. 糸通し説明図
21. 針止め
22. 開放レバー
23. 押え解放レバー
24. 糸ごまホルダー
25. 差動送りダイヤル
26. 縫い目ダイヤル
27. ※ プーリー
28. フットコントローラー差込口
29. 電源スイッチ (ライトスイッチ兼用)
30. フロントカバー
31. 可動メス
32. 上ルーパー
33. 下ルーパー
34. ごみ受け
35. フットコントローラー
36. 説明書
37. 取扱説明DVD



メスユニット内部詳細図



※ このミシンは、普通のミシンと同様にプーリーは手前に回転するようになっています。



最初にミシンを使用するときは、押えの下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。

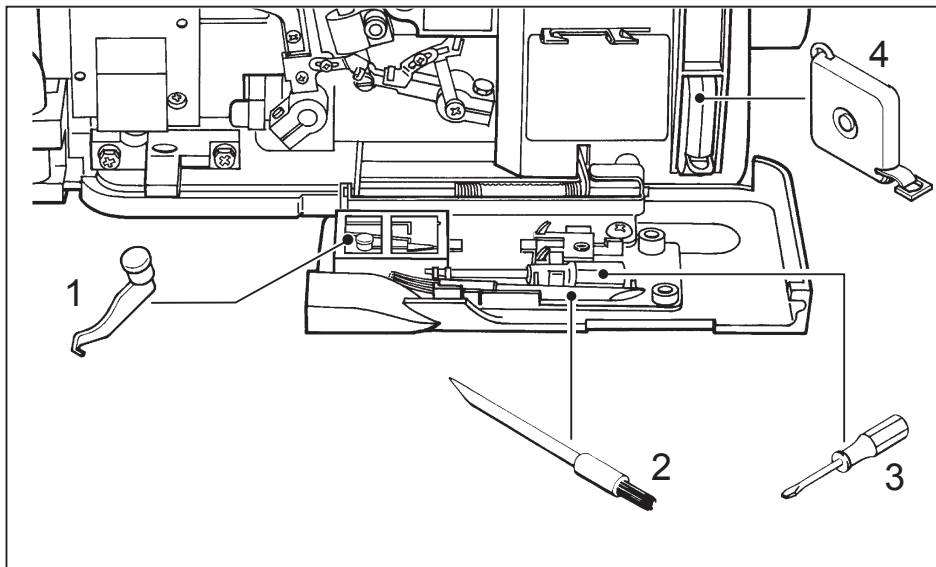


ほこりや油などで縫う布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

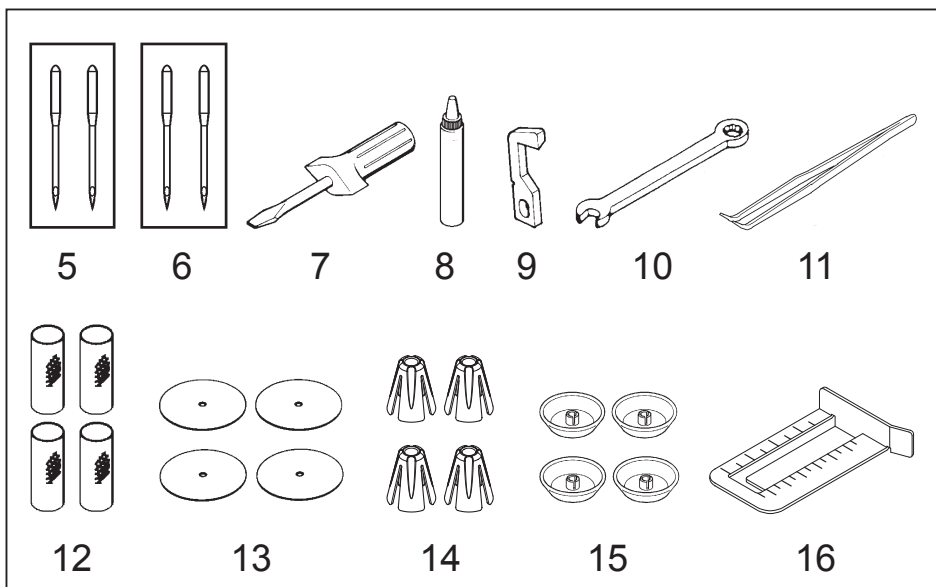
付属品

■ 図のようにフロントカバーを開くと付属品が入っています。(フロントカバーの開きかた：6ページ参照)

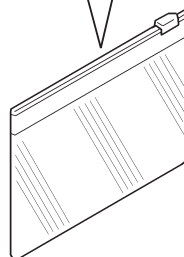
1. 2本糸ルーパー
2. ブラシ
3. ドライバー (小)
4. メジャー (別売)



5. 針セット (#11 × 2)
6. 針セット (#14 × 2)
7. ドライバー (大)
8. ミシン油
9. 可動メス
10. スパナレンチ
11. ピンセット
12. 糸ごまネット × 4
13. 糸ごまホルダー × 4
14. 糸ごまクッション × 4
15. 糸ごま押え × 4
16. 布ガイドゲージ



17. 付属品入れ



17

縫い始める前に行うこと

■ フットコントローラーのセット

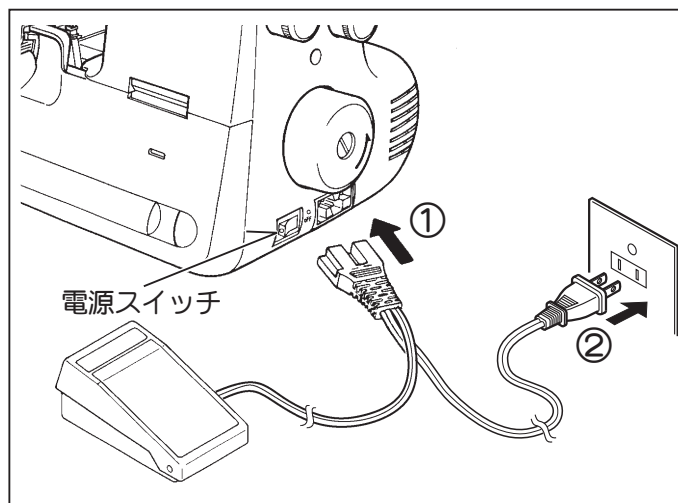
電源スイッチを「OFF」にしてください。


フットコントローラーの差し込みプラグ①を形状に合わせてミシンにしっかりと差し込みます。


■ 電源のつなぎかた


電源プラグ②を室内コンセントに差し込みます。

電源スイッチを「ON」にして電源をいれます。
(同時に照明ランプが点灯します。)



 注意	ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
---	---

 注意	フットコントローラーは必ず付属の当社指定のものを、ご使用ください。
---	-----------------------------------

 注意	フットコントローラー使用後は乾いた布で付着したほこりや汚れをふき取ってください。
---	--

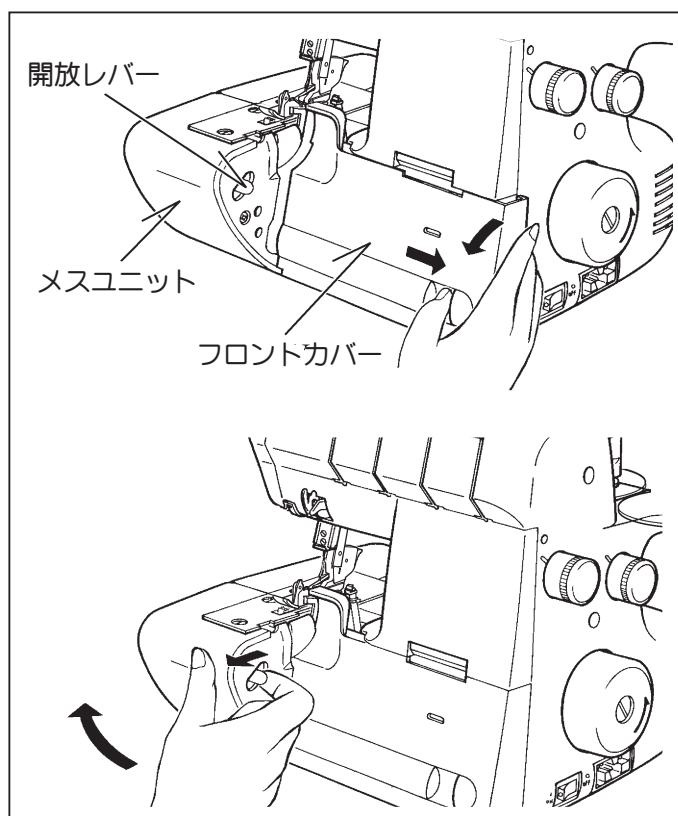
■ フロントカバーの開きかた

図のように、フロントカバーのくぼみに指をあてて右側に(→)スライドさせ、前方に(↙)カバーを引きたおします。

■ メスユニットの開きかた

開放レバーを手前に(↙)引くと左側に(↶)開くことができます。

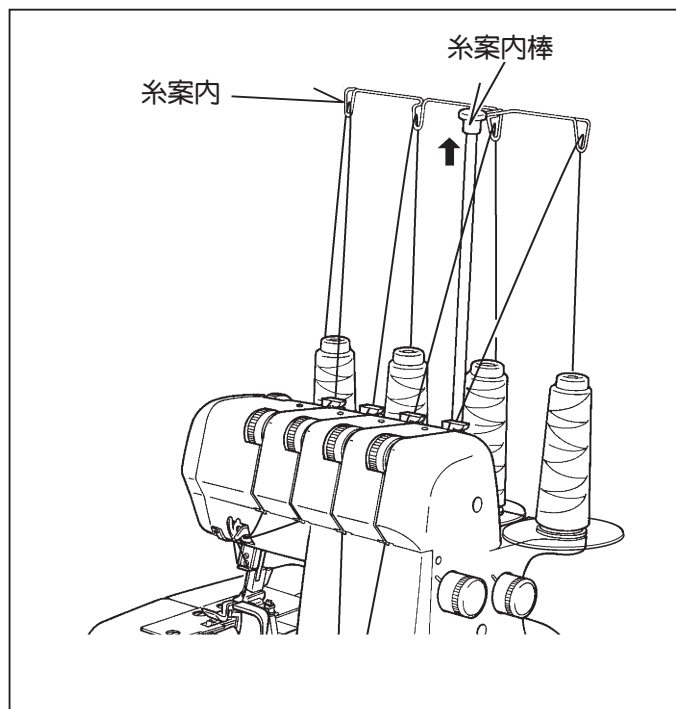
布ガイドゲージを取り付けている場合は、布ガイドゲージを取り外してからメスユニットを開きます。



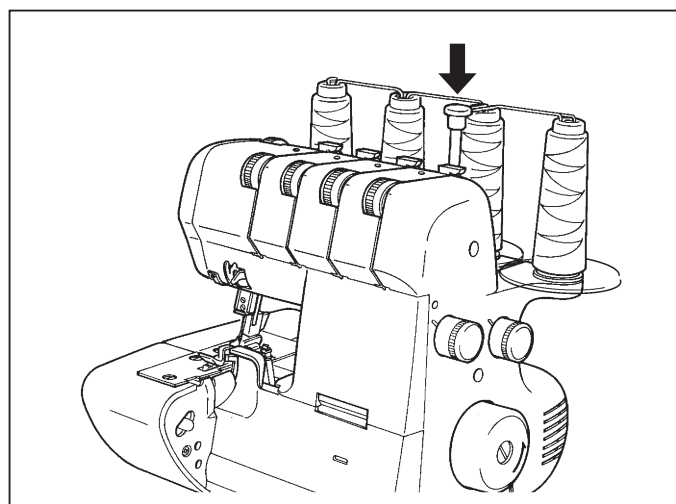
糸案内棒のセット

糸案内棒をいちばん上まで伸ばしてください。

糸案内棒を伸ばすのを忘れますと正常な糸調子がとれず、目とびや糸切れなどの原因になります。



ミシンを使用しないときは、図のように糸案内棒を下げ、糸案内内部を糸ごまの穴にはめこんで収納します（チーズ巻き糸の場合のみ）。



糸ごま押え

ボビン巻き糸を使用する場合には、糸ごまクッションを外し、付属の糸ごま押えを糸立棒にはめてください。

糸ごまホルダーと糸ごまクッション

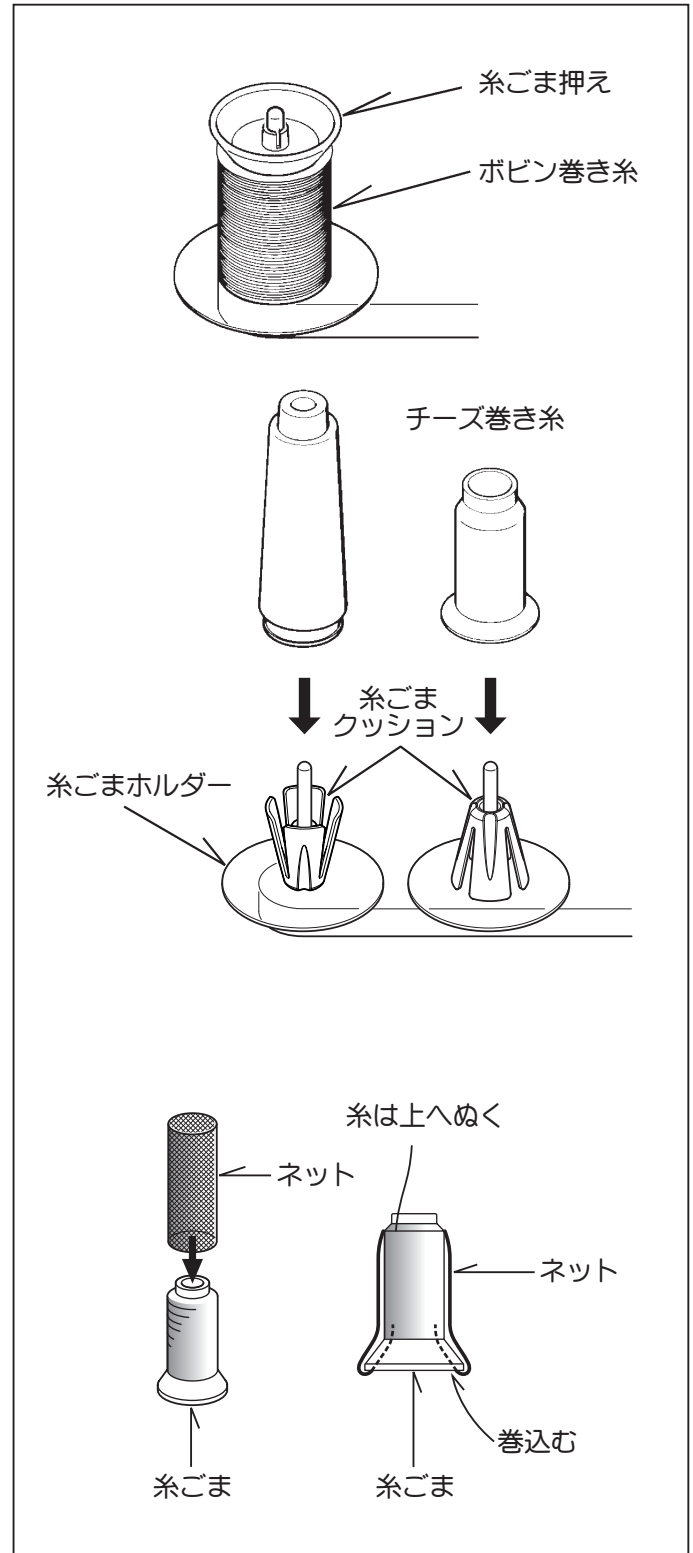
糸ごまホルダーと糸ごまクッションを糸立棒に取り付けます。

径の大きいチーズ巻き糸を使用する場合は、糸ごまクッションの径の大きい方を上に向けて糸ごまを固定してください。

径の小さい巻き糸を使用される場合は、クッションの径の小さい方を上に向けて固定してください。

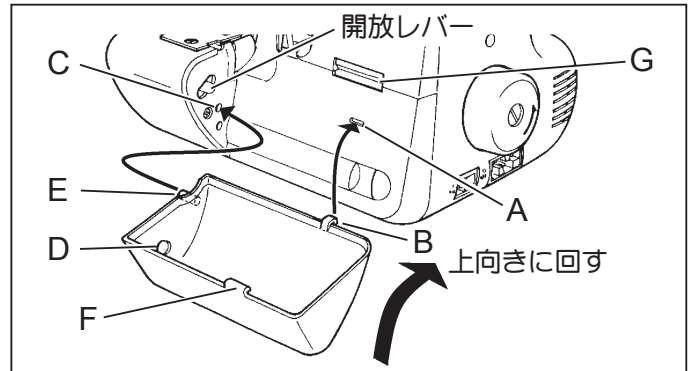
糸ごまネット

巻きがくずれやすいテトロン糸やウーリーナイロン糸を使用の際には、付属の糸ごまネットを使用してください。



ごみ受け

図のように穴 (C) にピン (E) を差し込み、突起 (B) を (A) にはめ込んで取り付けが出来ますので、切りくずなどをそのまま捨てる事が出来ます。裁縫が終わったら、上向きに回して穴 (D) に開放レバーを差し込み、突起 (F) を (G) にはめ込んでください。

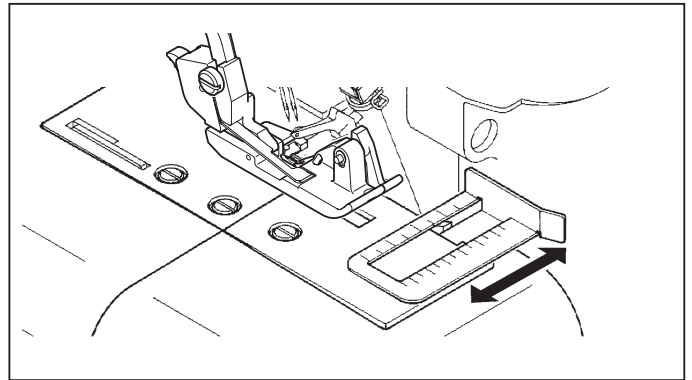


布ガイドゲージ

布ガイドゲージは切り落とす布地の幅の目安ガイドとしてご利用ください。

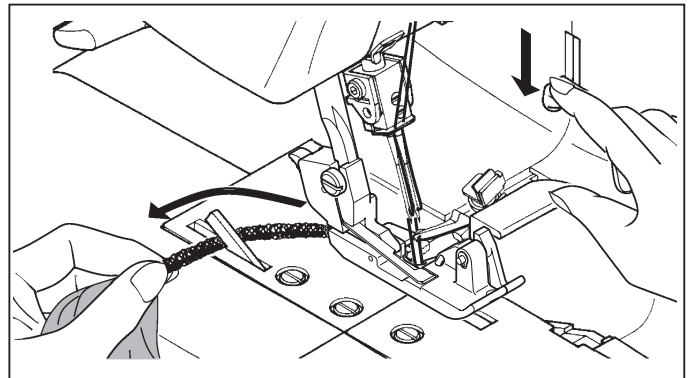
図のようにメスユニットに差し込み、希望の位置に調整します。

※ メスユニットを開くときは、布ガイドゲージを本体から取り外してください。



糸切り

図のように右手で糸切りレバーを押し下げ、糸を刃の下に通し、右手をはなすと、糸が切れます。



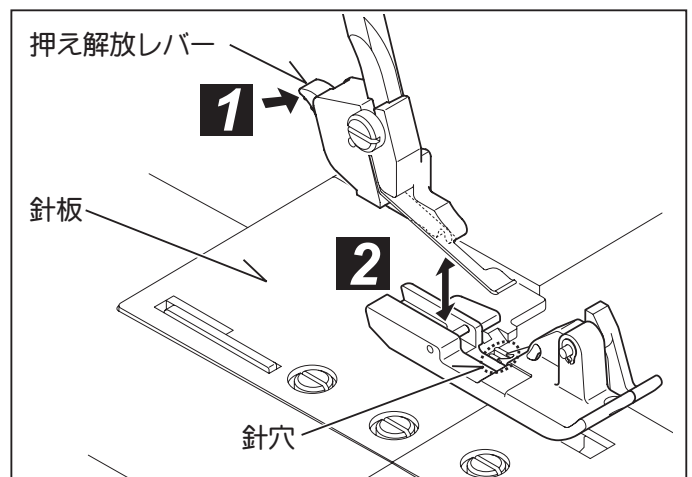
押えの取りかえかた

■ 押えと針を上げます。

1 押え解放レバーを矢印の方向に押し、押えが外れます。

2 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上に置きます。

3 押え上げを下げると押えがセットされます。入りにくいときは、押え解放レバーを押すと入ります。



針と糸と布の使いかた

- 布地に適した針と糸を使用してください。
- 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。

糸は番手が大きいほど細く、針は番手が大きいほど太くなります。

布地		糸		針
		種類	番手	
木綿 麻	薄地	オーガンジー・ローン・ギンガム	スパン糸・テトロン糸 綿糸	80番 100番
	厚地	オックスフォード・デニム・綿ギャバ	スパン糸・テトロン糸 綿糸	60番～50番 100番
毛	薄地	トロピカル・ポーラ・ウール・ポプリンなど	スパン糸・テトロン糸 綿糸	80番 80番
		サージ・ギャバジン・フラノなど	スパン糸・テトロン糸 綿糸	80番～60番 60番
	厚地	ベロア・キャメル・アストラカンなど	テトロン糸 綿糸	60番～50番 60番
化繊 合繊 混紡	薄地	ジョーゼット・ボイル・サテンなど	スパン糸・テトロン糸 綿糸	100番～80番 100番～80番
	厚地	タフタ・ツイル・ベネシャン・デニムなど	スパン糸・テトロン糸 綿糸	60番 60番
ニット地		トリコット（化繊・合繊）	スパン糸・テトロン糸 綿糸	80番～60番 80番～60番
		ジャージ（化繊・合繊）	テトロン糸 綿糸	60番～50番 60番
		毛糸	テトロン糸 ウーリーナイロン	60番～50番

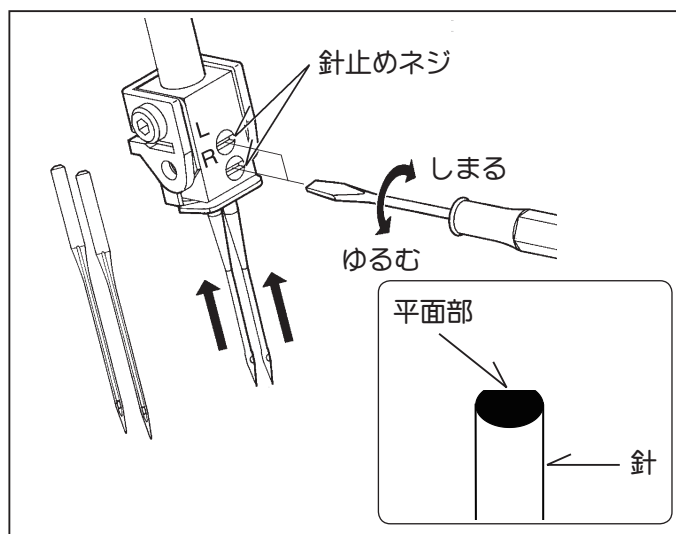
BL × 4
HA × 1SP(ニット針)
HA-1(家庭用ミシン針)
11番 14番

ほとんどの場合 14 番の針で間に合いますが、薄手の布地の場合は 11 番の針が良い場合があります。穴糸などの太い絹糸で飾り縫いをする場合は 14 番を使用します。

針の取りかえかた

このミシンには、あらかじめ BL × 4 14 番の針が取り付けられています。

- 1 プーリーを手前に回し、針を最上点に上げます。
- 2 針止めネジを付属のドライバー（小）でゆるめ、針を外します。
- 3 新しい針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針を針止めのみぞ穴のいちばん上まで、差し込みます。
- 4 付属のドライバー（小）で針止めネジをかたくしめます。



針を取りかえるときは、必ず電源スイッチを切ってください。

2. さあ縫ってみましょう……

4本の糸かけをしてみましょう

糸かけの準備

このミシンにはあらかじめ、糸がセットしてあります。糸のかけかたを間違えますと、目とび、糸切れの原因となりますので、正しい糸の通しかたを覚えましょう。

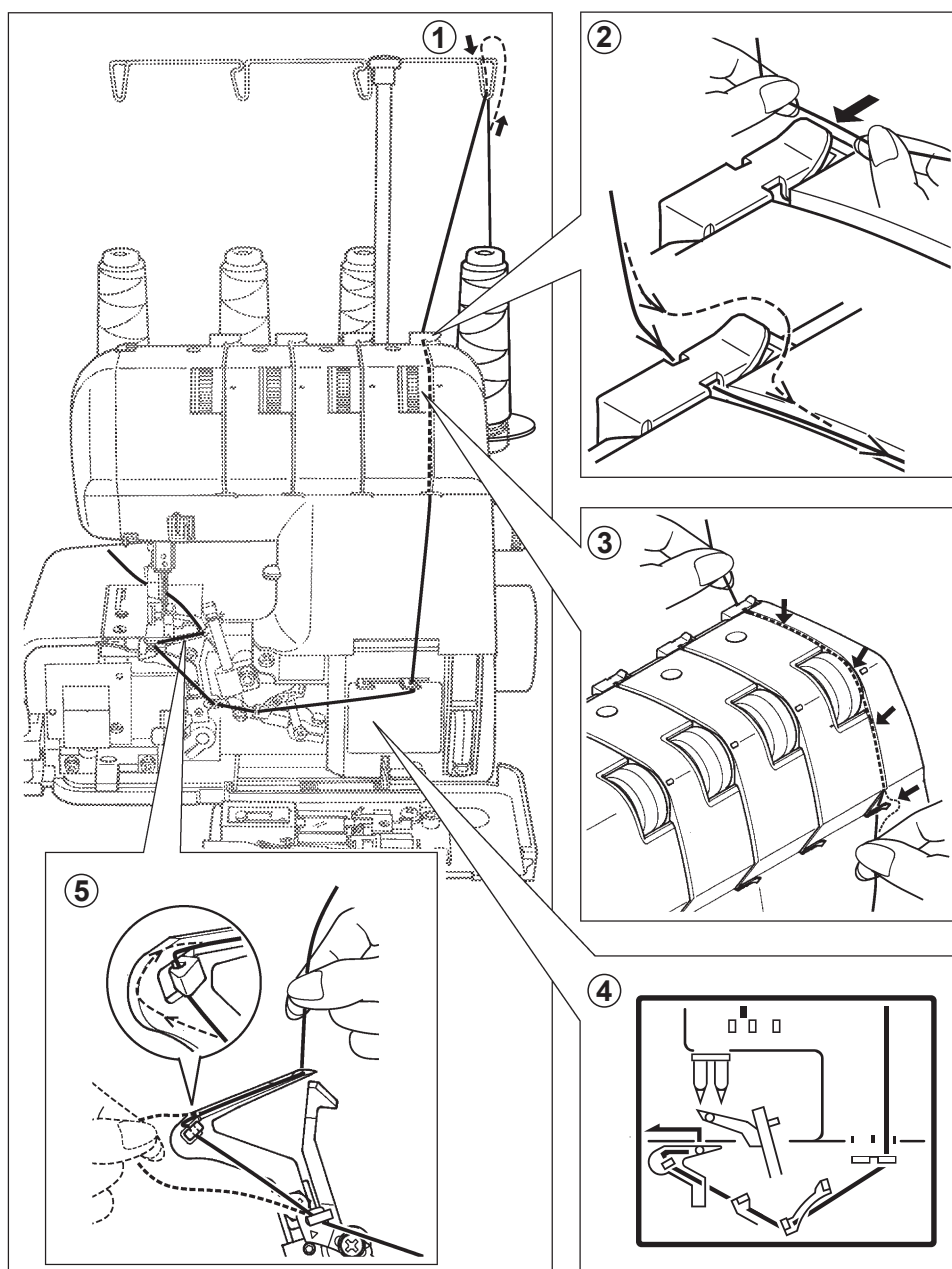
糸は下ルーパー、上ルーパー、右針、左針の順に通します。

裁縫の途中で、下ルーパーに糸を通しなおすときは、糸がからむのを避けるため、針から糸を抜いてください。

はじめに押え上げを上げます。(押え上げを上げないで糸をかけると、内蔵されている糸調子皿に糸が通らない為、糸調子が取れず、正常な縫いが出来ません。)

フロントカバー及びメスユニットを開いてください。(フロントカバーの開きかた、メスユニットの開きかたは6ページを参照ください。)

下ルーパー糸かけ



① 糸案内棒に糸をかけます。

② 糸案内に糸をかけます。

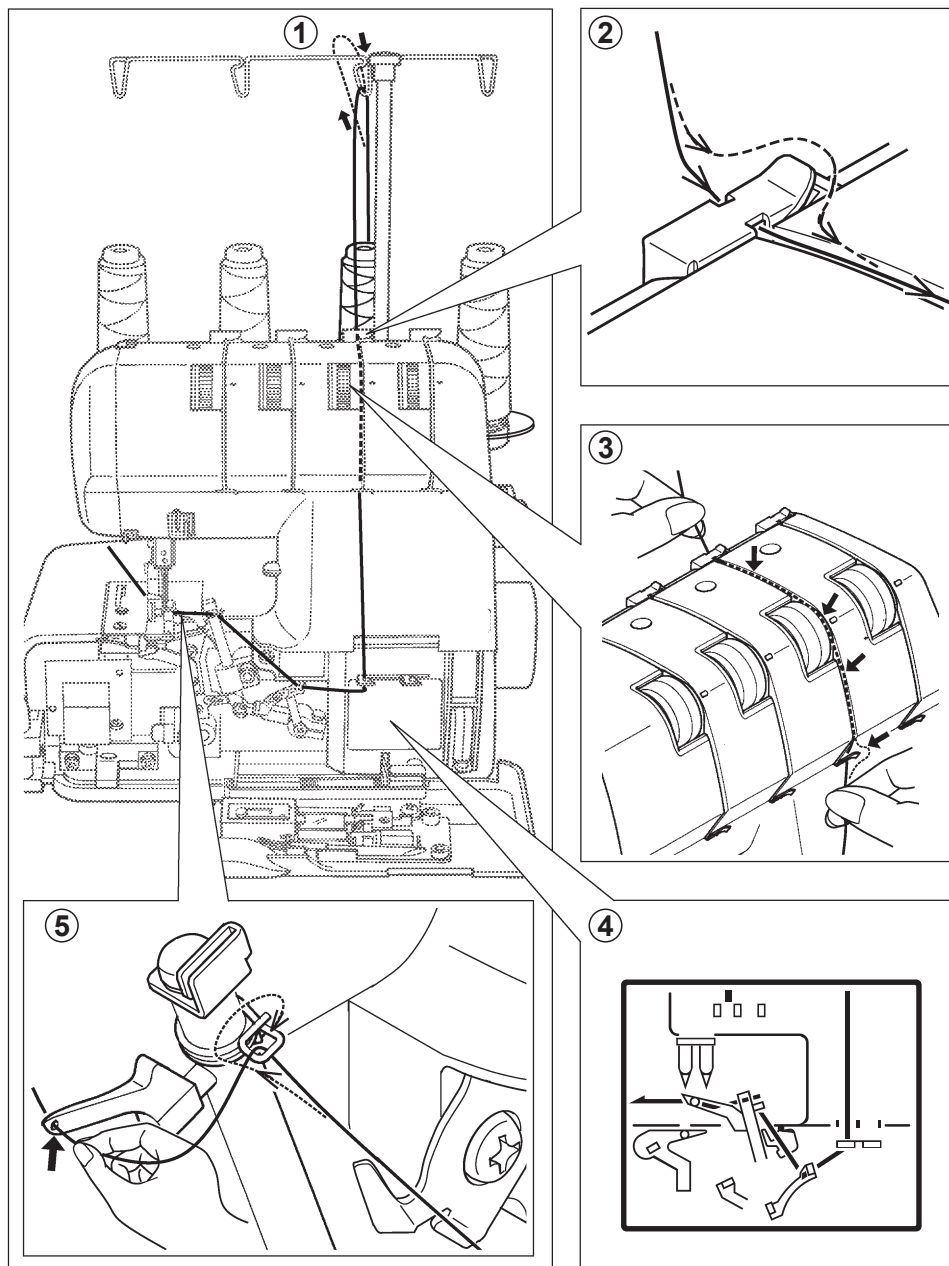
③ 片方の手で糸を保持し、もう一方の手で糸を糸調子みその奥まで入れてください。カチッと音がします。

④ 糸通し説明図の矢印に沿って糸をかけてください。

⑤ 下ルーパーの穴に糸を通して10cmほど引き出します。

※ 糸がかかりにくいときは、プーリーを手前に回して下ルーパーの位置を調整するか、ピンセットを使用してください。

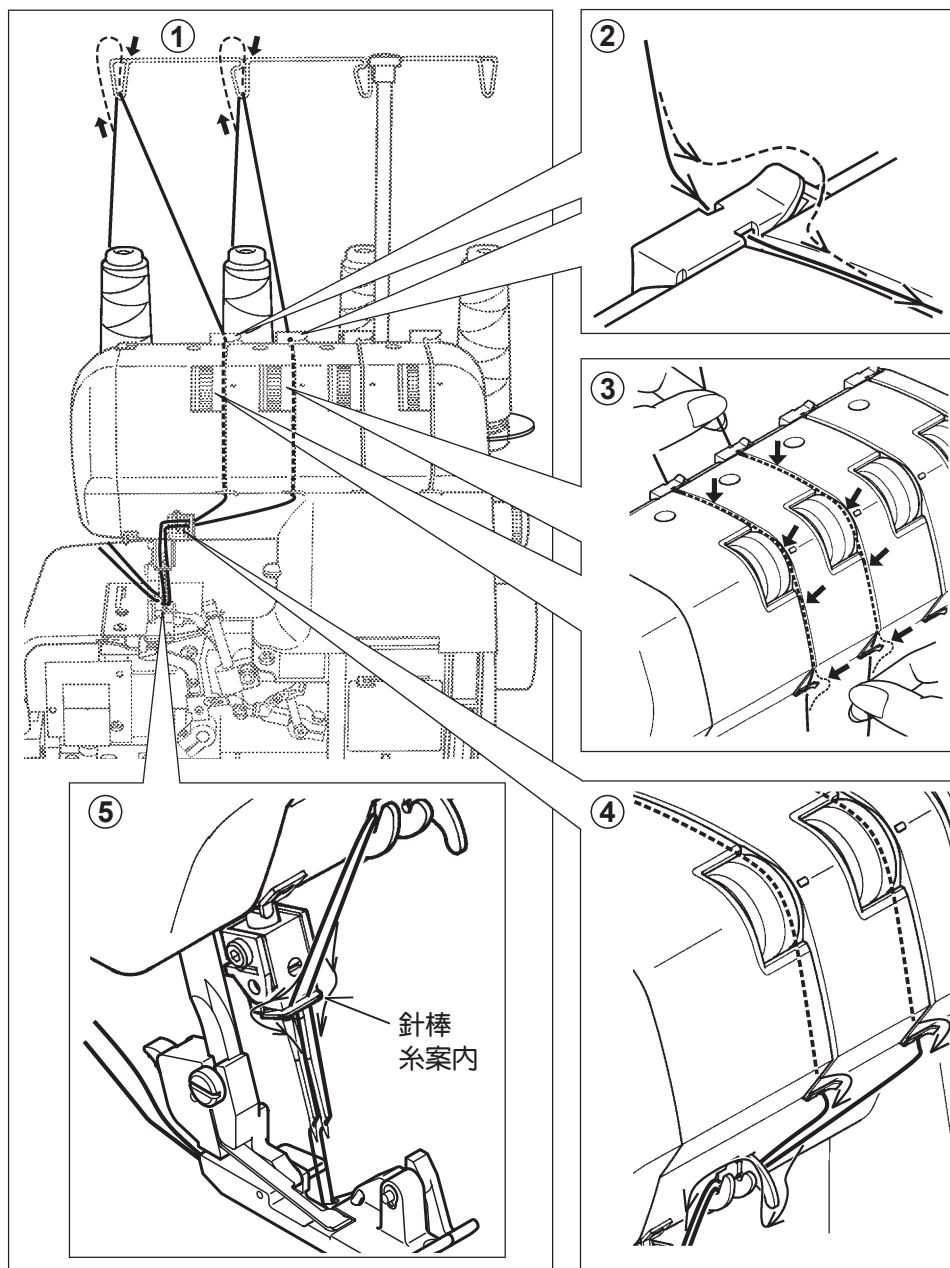
上ルーパー糸かけ



- ① 糸案内棒に糸をかけます。
- ② 糸案内に糸をかけます。
- ③ 片方の手で糸を保持し、もう一方の手で糸を糸調子みその奥まで入れてください。
カチッと音がします。
- ④ 糸通し説明図の矢印に沿って糸をかけてください。
- ⑤ 上ルーパーの穴に糸を通して10cmほど引き出します。

※ 糸がかかりにくいときは、プーリーを手前に回して上ルーパーの位置を調整するか、ピンセットを使用してください。

右針糸かけ、左針糸かけ



- ① プーリーを手前に回し、針を最上点に上げます。糸案内棒に糸をかけます。
- ② 糸案内に糸をかけます。
- ③ 片方の手で糸を保持し、もう一方の手で糸を糸調子みぞの奥まで入れてください。
カチッと音がします。
- ④ 天びん部の糸案内に糸をかけます。
- ⑤ 針棒糸案内に糸をかけます。針穴に糸を通して10cmほど引き出します。

* 糸通し器（別売り）を使用すると簡単に針穴への糸通しが出来ます。
（33ページを参照ください。）

知っておくと便利なこと

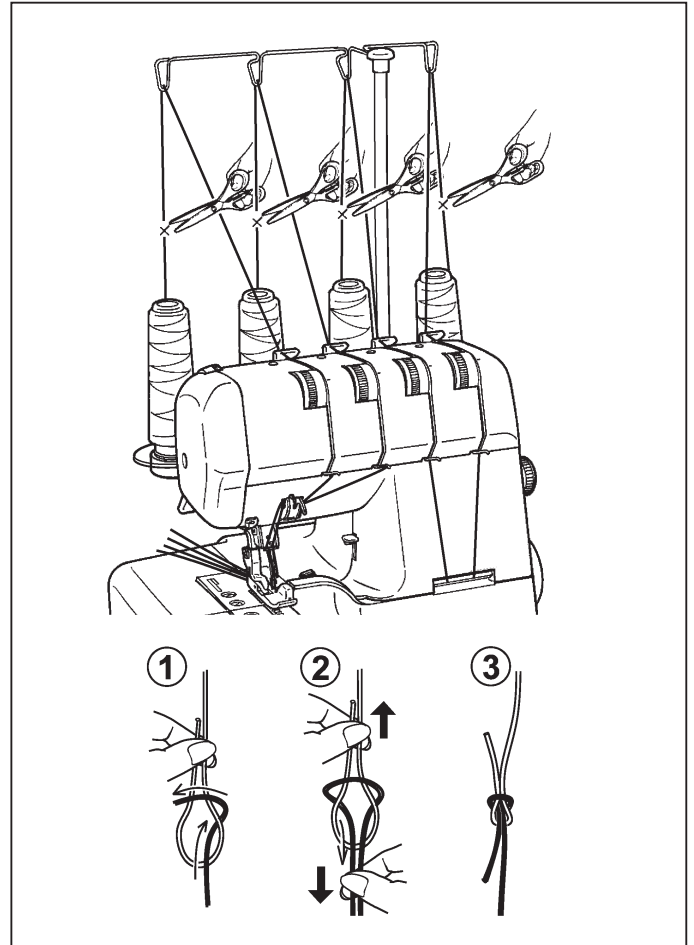
糸のかえかた

このミシンにはあらかじめ、糸がセットされています。糸をかえるときは、次の手順で簡単にかえることが出来ます。

- 1 糸ごまの近くで糸を切り、新しい糸ごまをセットして、交換する別の糸につなぎかえます(① → ② → ③)。
- 2 押えを上げます。
- 3 プーリーを奥側に回して針を最下点まで下げます。上・下ルーパー糸の場合は、結び目が押えの下へ来るまで引きだします。

針糸の場合は、針を曲げないために、結び目を針穴の手前で止めます。

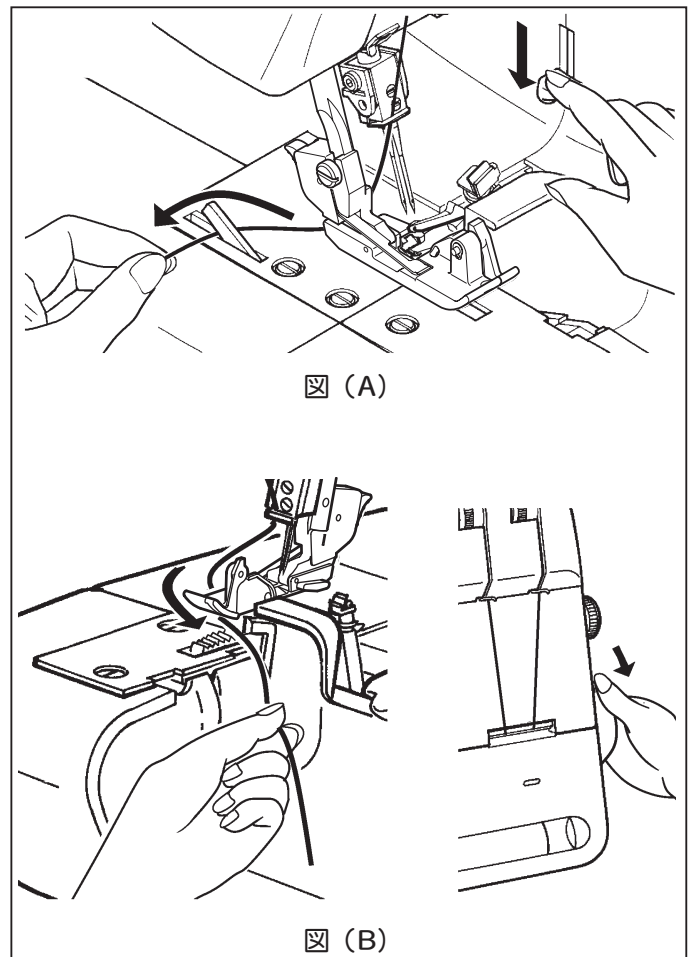
プーリーを手前方向に回し、針を最上点に上げ、糸を切って針穴に通します。



針糸の便利な切りかた

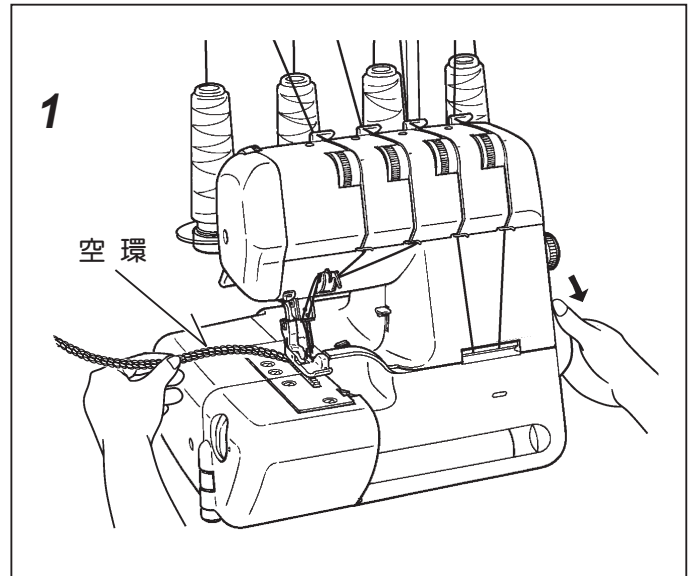
糸端がほぐれて針穴に糸を通しにくい場合は、図(A)のように右手で糸切りレバーを押し下げ、糸を刃の下に通した状態で右手のレバーをはなすと、糸のほぐれた部分を切り取ることが出来ます。

または、図(B)のように糸を可動メスの下に持ってきて、プーリーを手前に回して可動メスを下げ、糸のほぐれた部分を切り取ります。



試し縫い

- 1** 押えを下げ、図のように4本の糸の端を左手で持ち、プーリーを右手で手前方向（矢印の方向）に3～4回まわして糸をからませます。そして糸を後方に引きながらフットコントローラーを軽く踏み、ミシンをゆっくり動かします。チェーン状の網目が出来ますので、出具合を確認してください。これを空環といいます。

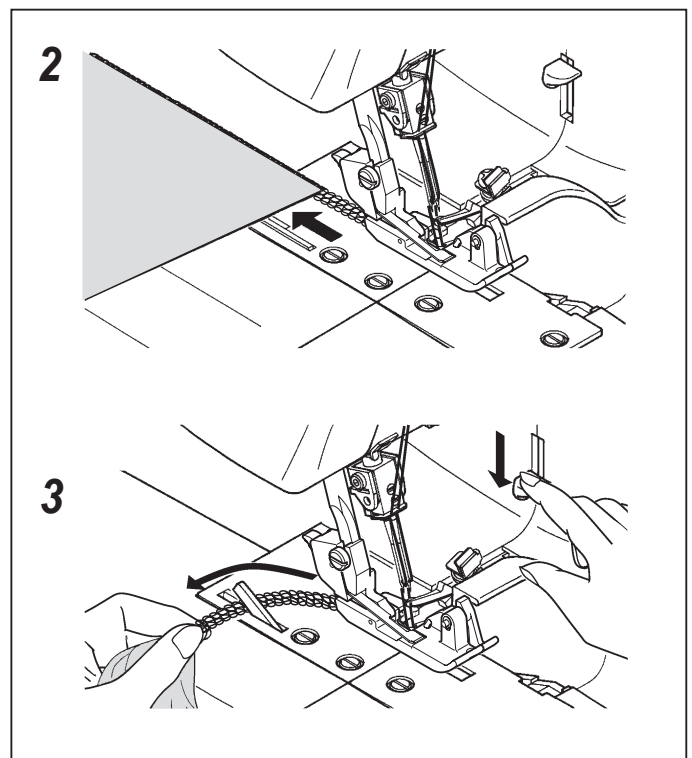


- 2** 次に、実際に使用される布切れで試し縫いをして、糸調子が正しいかを確認します。

布地を押えの下に差し込み、押えを下げます。

布送りの要領は右手は布地を軽くつかみ、左手は布地を軽く押えます。

縫い始めはゆっくり縫ってください。



- 3** 布端まで縫い終わっても、そのまま縫い続け、布地を軽く引っ張り、5～7cm縫い、その中ほどをハサミまたは糸切りで切ってください。

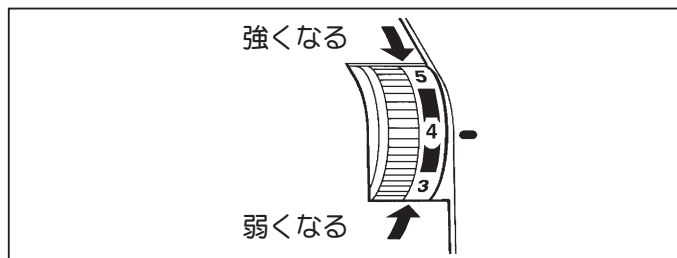
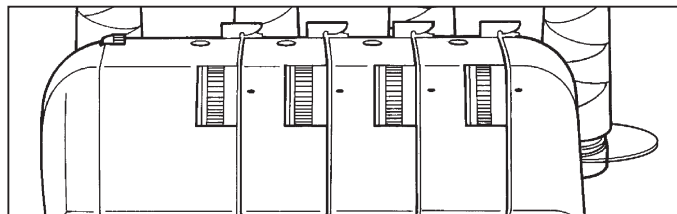
ダイヤル機能の紹介

糸調子ダイヤル

糸調子ダイヤルは糸の調子を調節することができます。右から順に、下ルーパー糸調子ダイヤル、上ルーパー糸調子ダイヤル、右針糸調子ダイヤル、左針糸調子ダイヤルです。

標準位置は「4」です。

ダイヤルを小さな数字に合わせるほど糸調子は弱くなり、大きな数字に合わせるほど糸調子は強くなります。

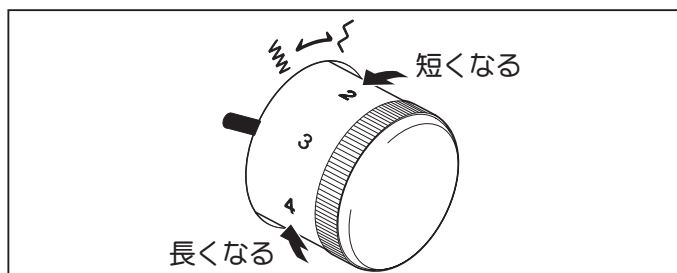
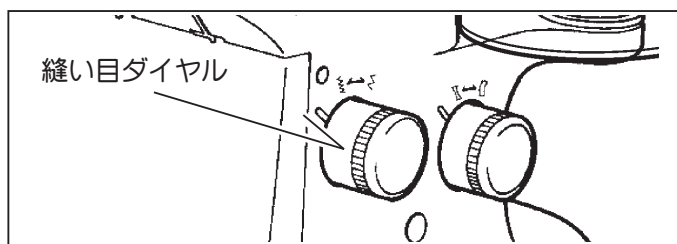


縫い目ダイヤル

縫い目ダイヤルは縫い目の長さを調節することができます。

標準位置は「3」です。

ダイヤルを小さな数字に合わせるほど縫い目は短くなり、大きな数字に合わせるほど縫い目は長くなります。

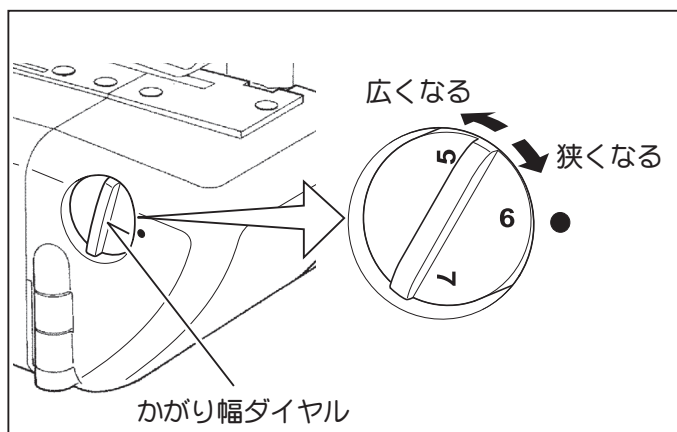


かがり幅ダイヤル

かがり幅ダイヤルはかがり幅を調節することができます。

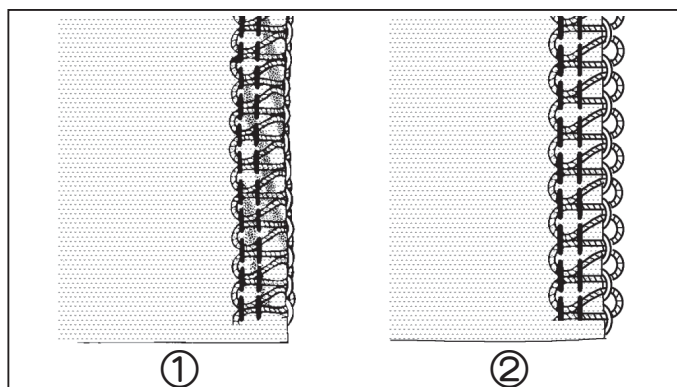
標準位置は「6」です。

ダイヤルを小さな数字に合わせるほどかがり幅が狭くなり、大きな数字に合わせるほどかがり幅は広くなります。



① 布端がカールする場合は「5」の方向に回してください。

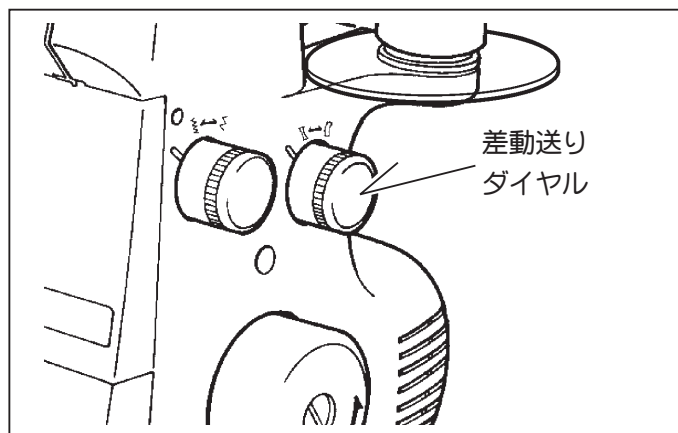
② 糸のループが布端からはみ出す場合は「7」の方向に回してください。



差動送りダイヤル

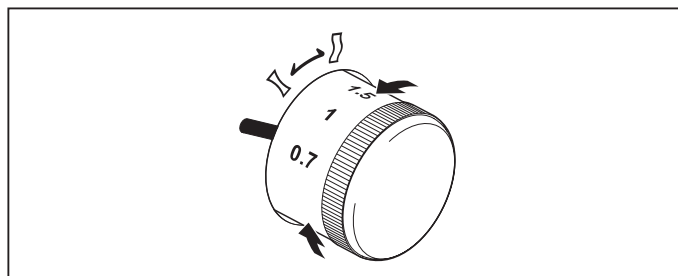
差動送りダイヤルは差動送り歯を調節することが出来ます。

差動送りを使用しないときは「1」に合わせてください。

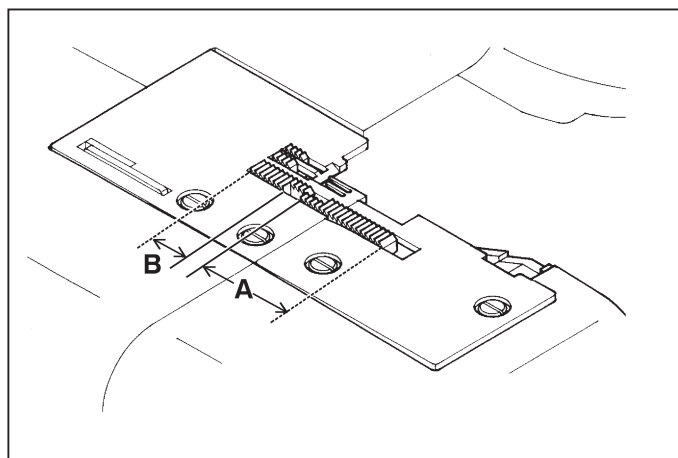


縫い縮みをしやすい布地を縫うときは、「0.7」～「1」にセットします。

縫い伸びをしやすい布地を縫うときは、「1」～「2」にセットします。



差動送り機構は2個の送り歯が付いており、後ろ送り歯（B）に対して前送り歯（A）の送り量を調節することにより、布地を縮めたり、伸ばしたりしながら縫えますので、縫いじわや波打ちがなく、美しく仕上がります。

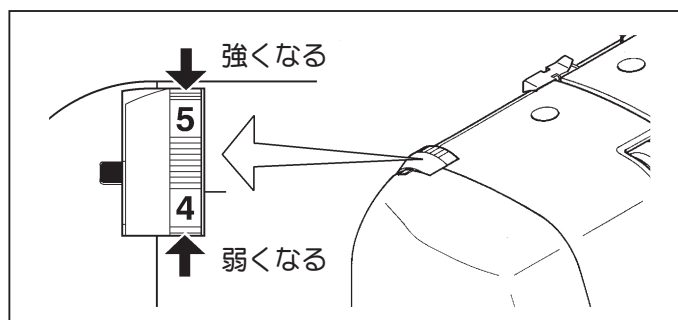


押え圧力ダイヤル

押え圧力ダイヤルは押え圧を調節することが出来ます。通常の場合は調節の必要はなく、「4」に合わせてください。






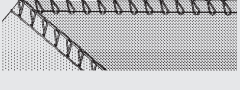





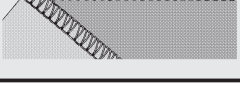
ダイヤルを小さな数字に合わせるほど押え圧力は弱くなり、伸縮しやすい布地やニット地に使用します。

ダイヤルを大きな数字に合わせるほど押え圧力は強くなり、柔らかく布送りの悪い布地に使用します。



いろいろな縫いかたとミシンのセット



糸調子は布の種類や糸の太さ、種類によって異なります。
使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。

針・ 糸数	縫いかた名称 / イラスト		使用針		糸調子ダイヤル			
			左	右	左針糸	右針糸	上ルーパー糸	下ルーパー糸
2本針 4本糸	標準縫い		○	○	4	4	4	4
1本針 3本糸	標準縫い(左針)		○	-	4	-	4	4
	標準縫い(右針)		-	○	-	4	4	4
	細幅縫い		-	○	-	3-4	2-4	0-1
	巻き縫い		-	○	-	4	4	4
	ピコ縫い		-	○	-	3.5-4	4	4
	フラット縫い(右針)		-	○	-	1-2	4-5	4-5
2本針 3本糸	強化伸縮縫い		○	○	3.5-4	3.5-4	-	1-2
1本針 2本糸	標準縫い(左針)		○	-	1-1.5	-	-	4
	標準縫い(右針)		-	○	-	4	-	0-1
	伸縮縫い		○	-	4	-	-	3-4
	巻き縫い		-	○	-	3-4	-	3-4

上表のダイヤルの数字は目安ですので、多少の調節が必要な場合があります。

可動メスを解放する場合、27ページの可動メスの解放方法を参照ください。

※ ウーリーナイロン糸を使用する場合は、糸調子を弱くしてください。

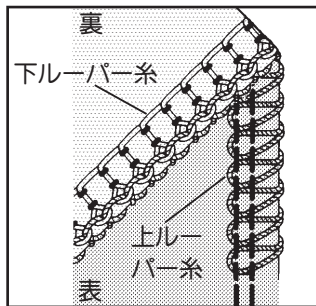
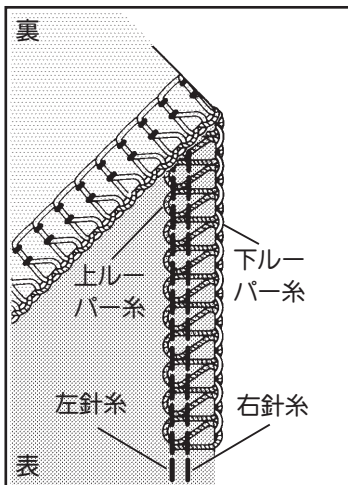
かがり幅 ダイヤル	縫い目 ダイヤル	差動送り ダイヤル	針板爪	可動メス 	2本糸 ルーバー 	参照ページ
6	2.5 - 3.5	1	○	○	-	
6	2.5 - 3.5	1	○	○	-	21
6	2.5 - 3.5	1	○	○	-	21
5	1.5 - 3	0.7 - 1	-	○	-	22
5	R	0.7 - 1	-	○	-	22
5	P	0.7 - 1	-	○	-	22
5 - 6	2 - 4	1	○	○	-	
6	2.5 - 3.5	1	○	○	○	
5 - 6	2.5 - 3.5	1	○	○	○	21
6	2.5 - 3.5	1	○	○	○	21
6	2 - 3.5	1	○	○	○	
5	1 - 2	0.7 - 1	-	○	○	

きれいな縫い目にする調整方法

4本糸

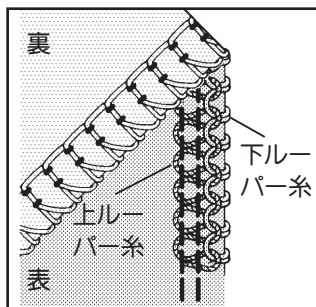
③注 3本糸は、左針糸または右針糸を除いた状態になります。

正しい縫い目



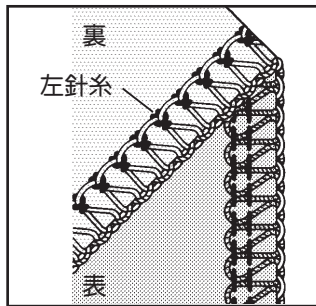
上ルーバー糸が裏側へ巻き込んでいる場合

対処：上ルーバー糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、下ルーバー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。



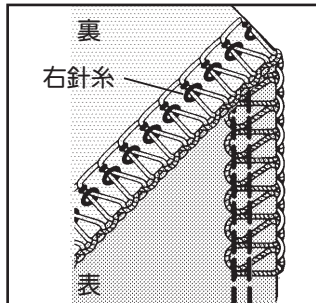
下ルーバー糸が表側へ巻き込んでいる場合

対処：下ルーバー糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、上ルーバー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。



左針糸がゆるい場合

対処：左針糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、下ルーバー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。

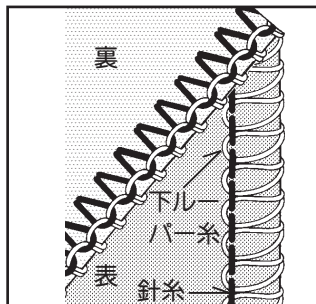
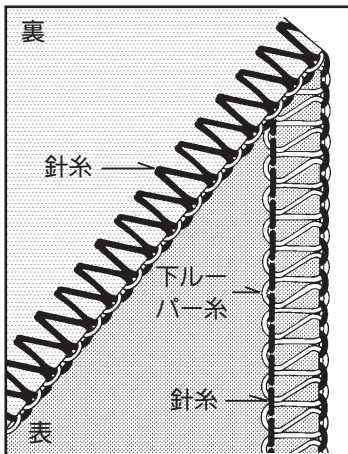


右針糸がゆるい場合

対処：右針糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。

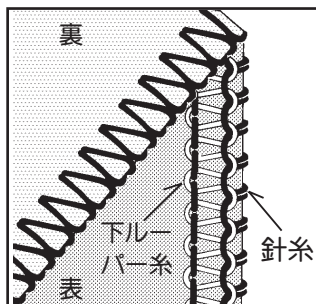
2本糸

正しい縫い目



下ルーバー糸が裏側へ巻き込んでいる場合

対処：下ルーバー糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、針糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。



針糸が表側へ巻き込んでいる場合

対処：針糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。または、下ルーバー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。

1 本針3 本糸縫い

1 本針3 本糸

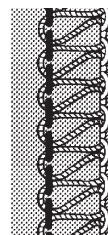
使用針：左または右

縫い目ダイヤル：「2.5」 - 「3.5」

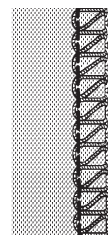
かがり幅ダイヤル：「6」

差動送りダイヤル：「1」

可動メス：要 針板爪：要



かがり幅 6mm



かがり幅 3.8mm

このミシンの主要な特長は、2 本針4 本糸縫いが出来ることですが、左または右の針糸だけを使って、1 本針3 本糸縫いも出来ます。

左針糸を使うと、かがり幅が6mmになり、右針糸を使うと、3.8mmになります。

使用しない針は取り外します。(針の取りかたは10ページを参照ください。)取り外した針の糸は外してください。

1 本針2 本糸縫い

1 本針2 本糸

使用針：左または右

下ルーパー使用

縫い目ダイヤル：「2.5」 - 「3.5」

かがり幅ダイヤル 左針：「5」 - 「6」

右針：「6」

差動送りダイヤル：「1」

可動メス：要 針板爪：要

左針糸を使うと、かがり幅が6mmになり、右針糸を使うと、3.8mmになります。

使用しない針は取り外します。(針の取りかたは10ページを参照ください。)取り外した針の糸は外してください。

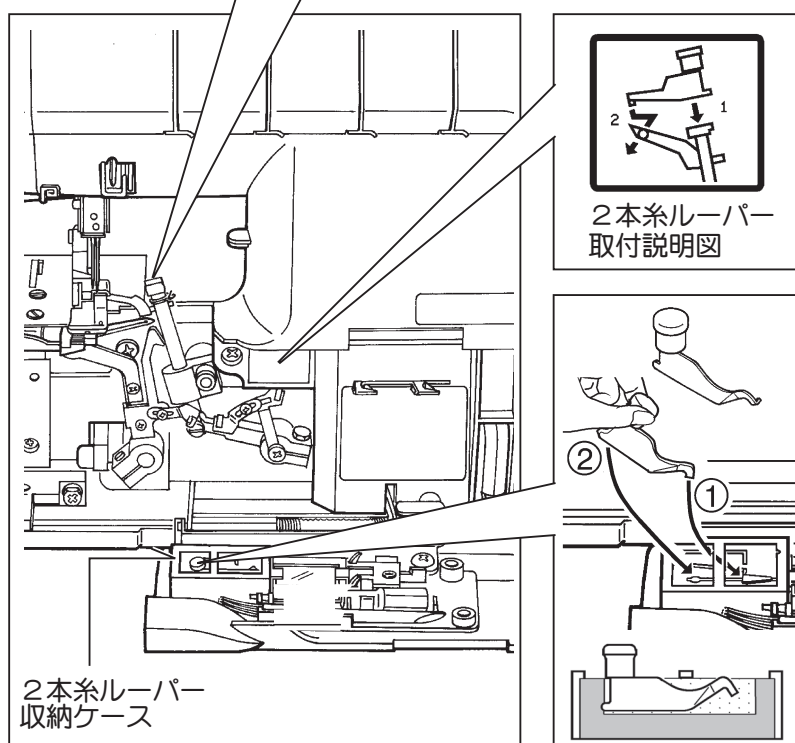
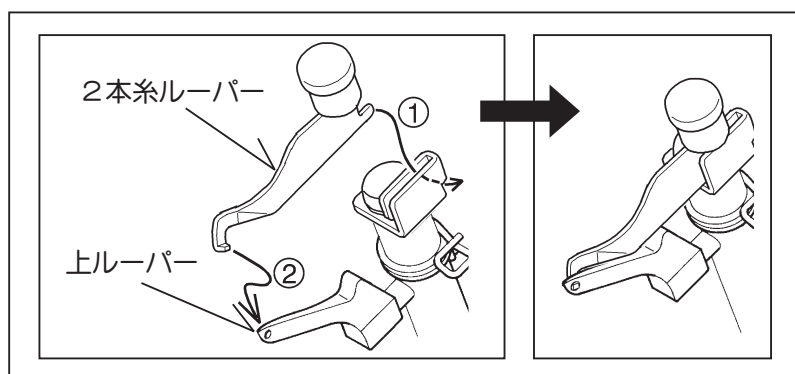
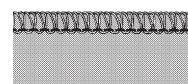
2 本糸ルーパーの取り付けかた

2 本糸ルーパー収納ケースから2 本糸ルーパーを取り出します。

図のように2 本糸ルーパーを上ルーパーに取り付け、固定します。

2 本糸ルーパー取付説明図も参考にしてください。

2 本糸ルーパーを使用しないときは、図のように①、②の順で収納ケースへしっかりと押し込んでください。



細幅縫い、巻き縫い、ピコ縫い

1本針3本糸

使用針：右

縫い目ダイヤル

細幅縫い：「1.5」-「3」

巻き縫い：「R」

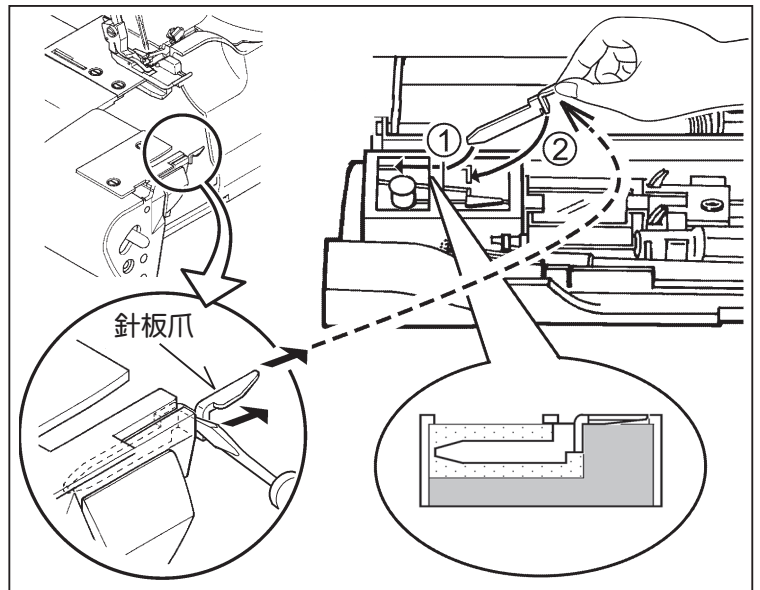
ピコ縫い：「P」

かがり幅ダイヤル：「5」

差動送りダイヤル：「0.7」-「1」

可動メス：要 針板爪：不要

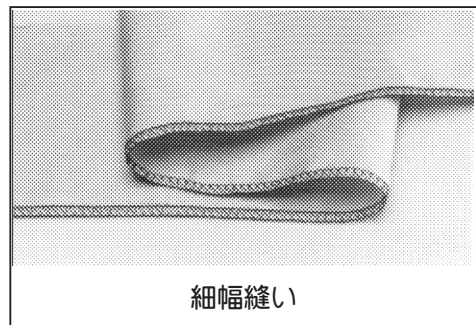
- 1 押えを上げ、フロントカバーとメスユニットを開けます。
- 2 針板爪を針板より外し、フロントカバーの所定位置に収納しておきます。
- 3 フロントカバーとメスユニットを元に閉じてください。
- 4 右針を使用しますので左針を取り外します。
(針の取りかたは10ページを参照ください。)



細幅縫い

約3mmのかがり幅で折り込んだ布端を自動的にかがっていく縫いかたです。細幅のため、厚地には向かず、主に薄地（ジョーゼット、デシン、絹など）の布端などの始末に用います。

*糸は、針糸にテトロン50番、上ルーパー糸にウーリーナイロン（低伸度）を使用します。



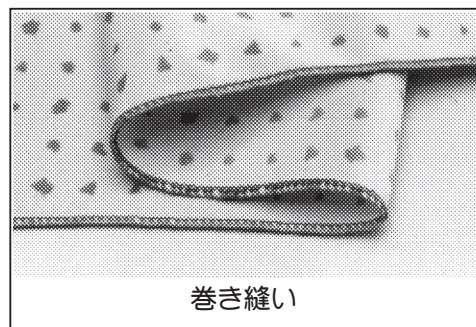
細幅縫い

巻き縫い

約3mmのかがり幅で自動的に折り込んだ布端を更に糸で巻くようにして、縁をかがっていきます。かがり幅が細く、更にかがり糸が密にかかる為、非常に丈夫で、また装飾効果もあり、特にフリルの布端のかがりにはかかせません。

縫い目がつまった場合は縫い目ダイヤルを「P」の方へ少し回してください。

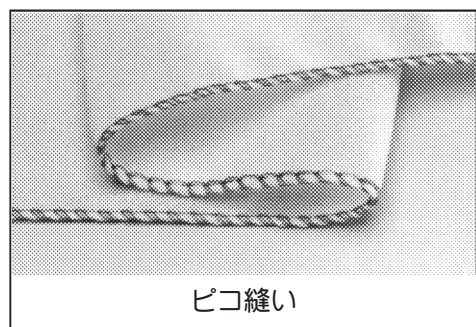
*糸は、針糸にテトロン100番、上ルーパー糸にウーリーナイロン（低伸度）を使用します。



巻き縫い

ピコ縫い

巻き縫いと同じ糸調子で、縫い目ダイヤルを「P」に合わせ、極薄の布を縁かがりすると、貝がらを一直線に並べたようなシェルタックの効果ができます。これはピコ縫いと呼ばれます。スカーフなどの縁どりに適しています。



ピコ縫い

ギャザー縫い

2本針4本糸

使用針：左・右

縫い目ダイヤル：「4」-「5」

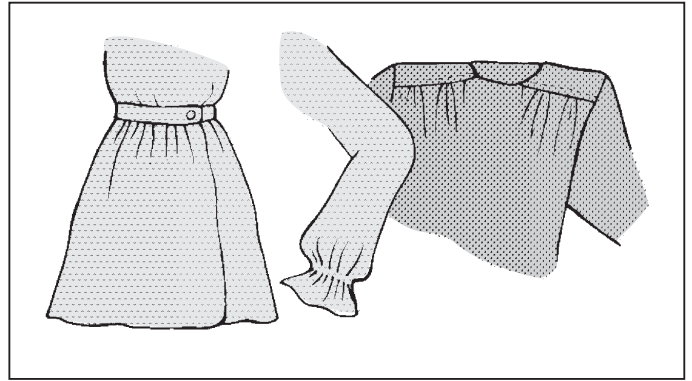
かがり幅ダイヤル：「6」

差動送りダイヤル：「1.5」-「2.0」

可動メス：要 針板爪：要

差動送り機能を応用して薄地の布地にギャザーよせが簡単に出来ます。

袖、裾、レース、ヨーク、フリル等に使えます。



ピントック縫い

1本針3本糸

使用針：左または右

縫い目ダイヤル：「2.5」-「3.5」

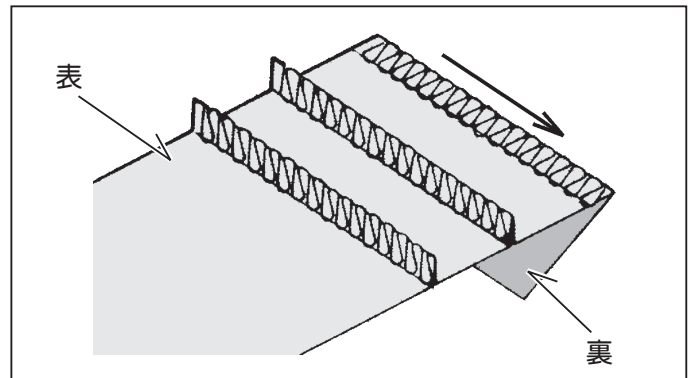
差動送りダイヤル：「1」

可動メス：不要 針板爪：要

装飾に、または布幅をつめるのに用いられます。

※ 布を切らずに縫いますので、可動メスを解放してください。

(可動メスの解放方法は27ページを参照ください。)



飾りブレード縫い

1本針3本糸

使用針：左または右(針の選択はテープ幅に合わせる)

縫い目ダイヤル：「3」

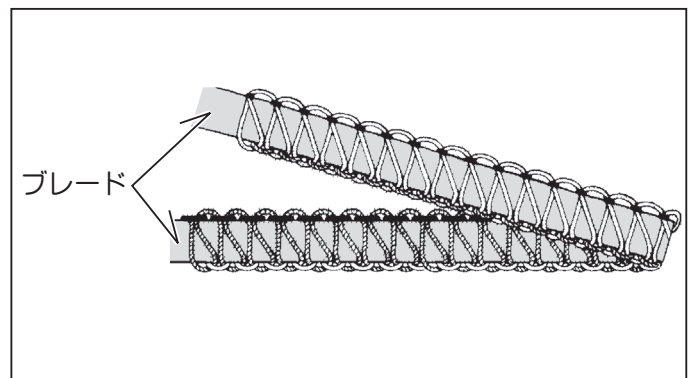
差動送りダイヤル：「1」

可動メス：不要 針板爪：要

※ テープ幅は最大6mm

※ 布を切らずに縫いますので、可動メスを解放してください。

(可動メスの解放方法は27ページを参照ください。)



芯ひも入り(強化)縁かがり縫い

2本針4本糸

使用針：左・右

縫い目ダイヤル：「3」

かがり幅ダイヤル：「6」

差動送りダイヤル：「1」

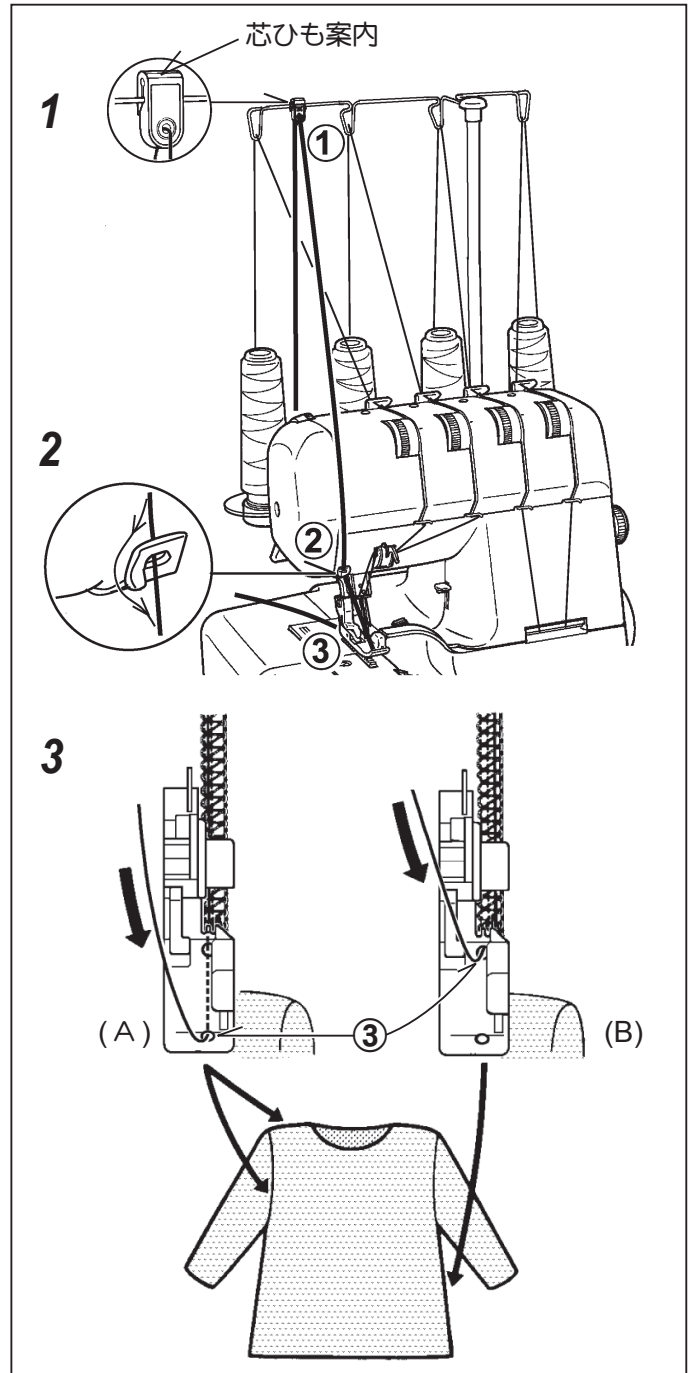
可動メス：要 針板爪：要

袖付け、肩縫い、脇縫いをするとき、伸び止めテープ、芯ひも(毛糸、穴糸、レース糸)を入れて縫うと、丈夫に仕上がります。

- 1 糸案内棒に芯ひも案内がついていることを確認します。
- 2 伸び止めテープ、芯ひもをミシンの後ろに置き、①、②、③の順に通します。
- 3 伸び止めテープ、芯ひもを押えの前または後ろの穴に通し、押えの下部から後部へ引き出しておきます。

袖付け、肩縫いをするときは、前の穴に伸び止めテープ、芯ひもを通して縁かがり縫いをし、左・右針糸の間に伸び止めテープ、芯ひもが固定されるようにします。(A)

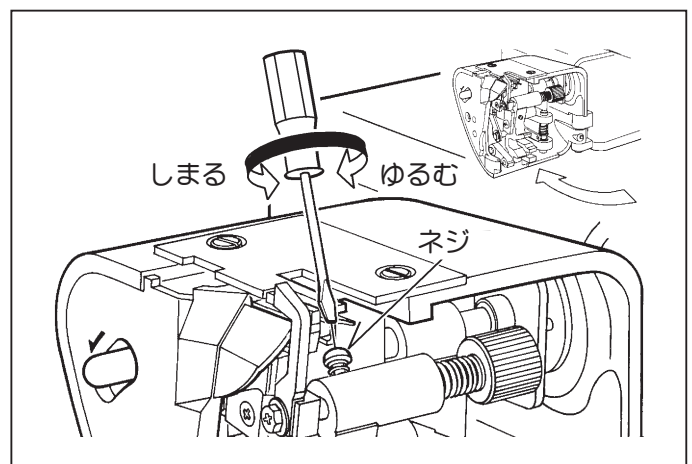
脇縫いをするときは、後ろの穴に伸び止めテープ、芯ひもを通し、右針糸の右側に伸び止めテープ、芯ひもが固定されるようにします。(B)



極厚地や重ね縫いをする場合

極厚地や重ね縫いをする場合は、図のようにメスユニットを開け、ネジをしめてください。

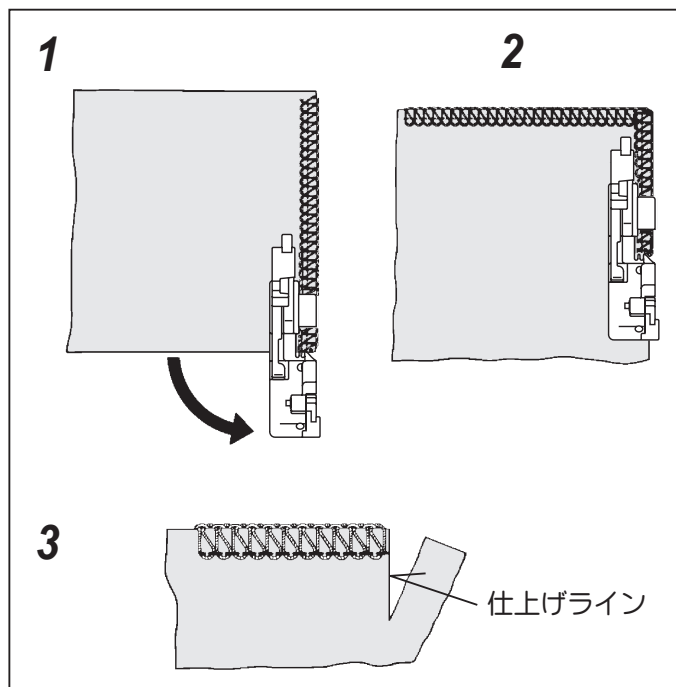
通常の場合、またかがり幅ダイヤルを回す場合は、メスの切れ味が悪くなる場合がありますので、ネジをゆるめておきます。



基本的なテクニック

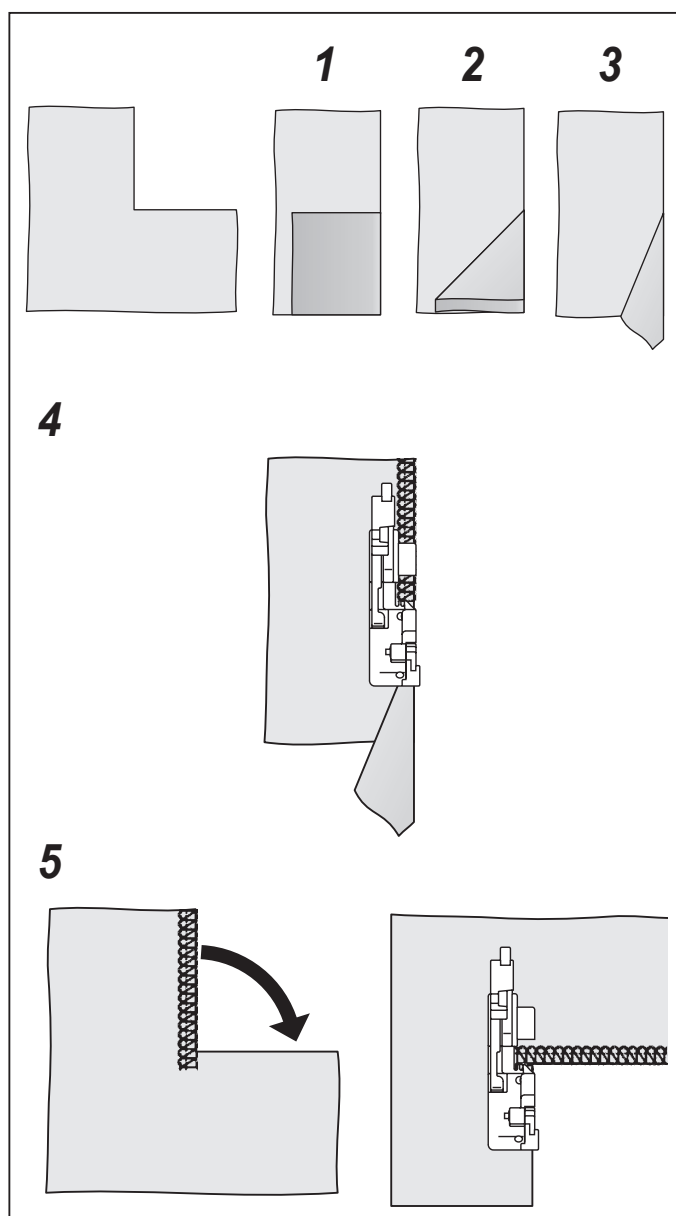
外角縫いの手順

- 1 角まで縫い、針を上げて止めます。
- 2 押えを上げて、布地を1cm程後ろへ引き出し、押えと針板の突起にからんでいる糸をそっと外します。そして布の向きを静かにかえて押えを下ろし、再び縫い始めます。
- 3 布をカットしながら角縫いをする場合は、前もって角の部分を3cmぐらい仕上げラインに沿って切っておきます（布の向きを変えたときにメスが布を切り始める周辺まで）。



内角縫い

- 1 内角の布を直線になるように半分にたたみます。
- 2 たたんだ布をさらに半分にたたみます。
- 3 もう一度半分にたたみます。
- 4 布を押えの下にセットし、内角部分から2針先まで縫ってミシンを止めます。そのとき、内角の布を一緒に縫い込まないように注意してください。
※ 可動メスを解放しておくとう作業が容易になります。（可動メスの解放方法は27ページを参照ください）。
- 5 針を下ろして押えを上げ、布を方向転換し、たたんだ布を広げて押えを下ろし次の布端を縫います。



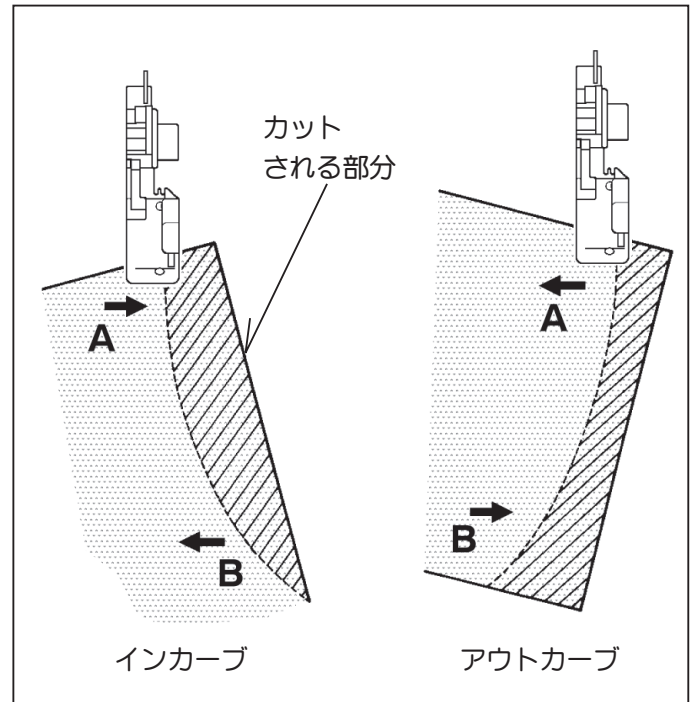
カーブ縫い

インカーブの縫いかた

布地を押えの右前端（または、少し左側）のところに縫いあがり線が来るように、A点のところを上から左手で押さえるようにして、B点のところは右手で布地をつまんで、どちらも矢印の方向に布地を押し出すようにしながら布地の縫いあがり線が直線的になるように布地を導きます。

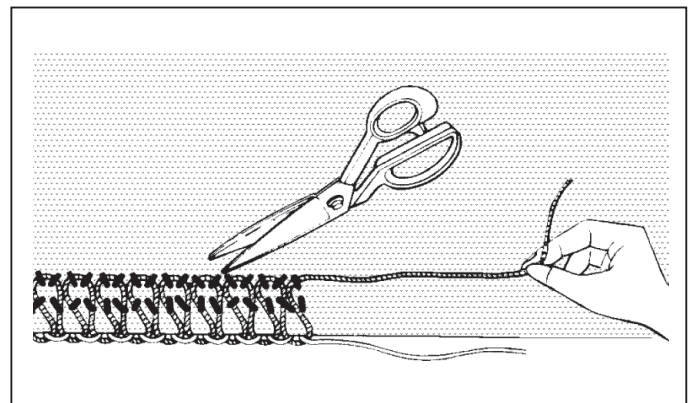
アウトカーブの縫いかた

インカーブの縫いかたととは、A点、B点の布地を押し出す方向が逆になりますが、その他はインカーブの縫いかたになります。



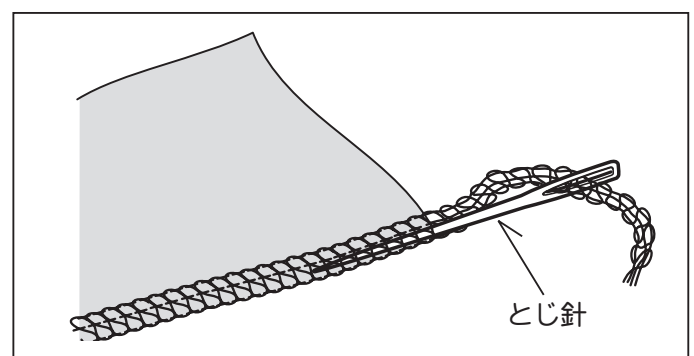
縫い目の解きかた

縫いまちがえたりして縫い目を解く場合は、針糸のところどころをハサミで切り、ルーパー糸を引っ張れば簡単に解けます。



縫い目のとじかた

とじ針を使用し、布端にある空環をとじ針で裏の縫い目に入れてください。



3. ミシンの手入れ



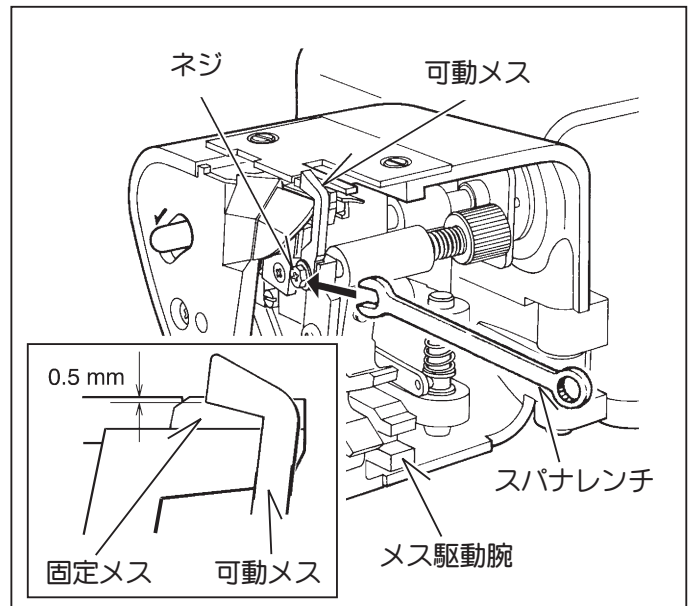
注意

安全のため必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガの原因になります。

可動メスの取りかえかた

はじめに、必ず電源プラグを抜いてください。

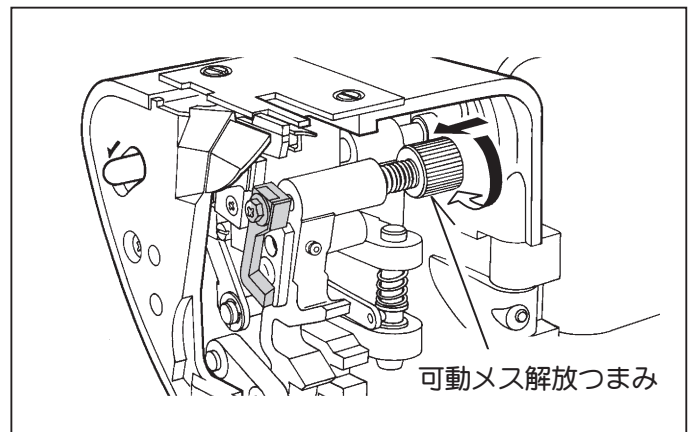
- 1 フロントカバーとメスユニットを開け、スパナレンチでネジをゆるめて、可動メスを取り外します。
- 2 メスユニットを閉じ、プーリーを手前に回して、メス駆動腕を最下点にします。
- 3 メスユニットを開け、固定メスの刃先の上面からおよそ0.5mm下がるようにセットし、ネジをしめます。



可動メスの解放方法

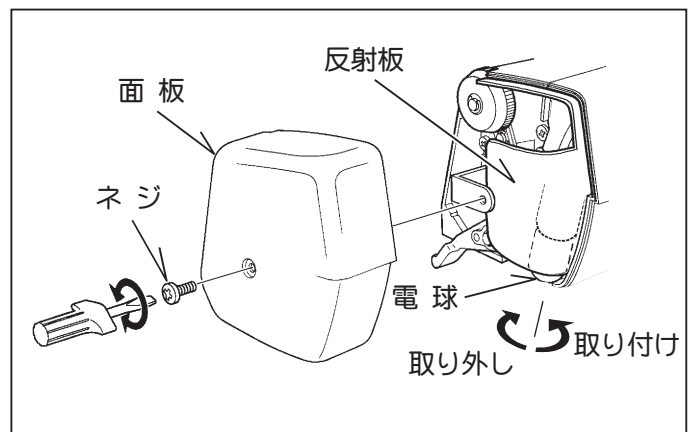
可動メス解放つまみを左へ押しながら、180度手前に回転させると、可動メスが固定メスより解放されます。

- ※ 可動メスを戻すときは、解放つまみを左へ押しながら、固定メスの方向に回転させてください。

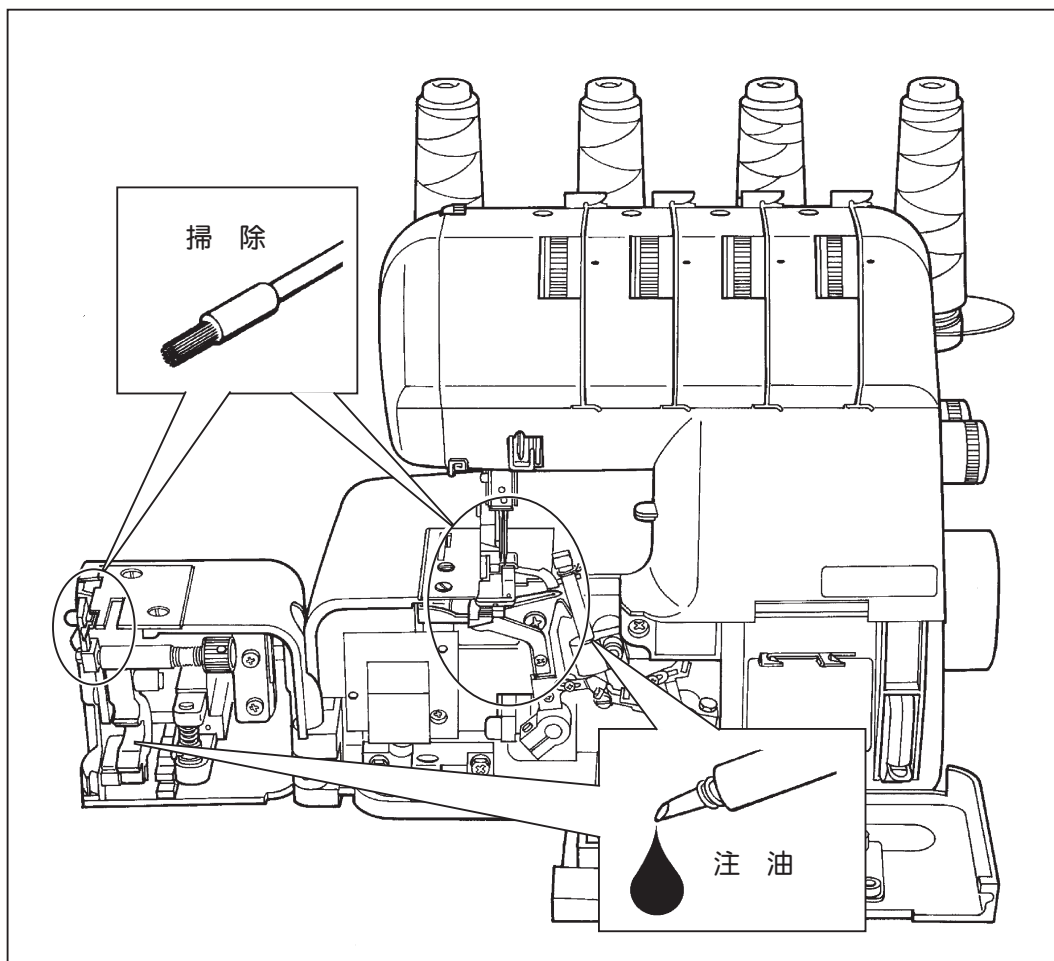



電球の取りかえかた

- 1 電源プラグを抜いてください。
- 2 ネジを外し、面板を取り外します。
- 3 反射板を手前に広げます。
- 4 電球を左に回して取り外し、新しい電球（110V、15Wネジ込み式）を右に回して取り付けます。
(注)：15W以上の電球は使用しないでください。
- 5 反射板・面板を元の位置に取り付けます。



掃除と注油



 安全のため必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガの原因になります。

はじめに、必ず電源プラグを抜いてください。

- 1** メスユニットを開けて、メスユニット内部、針板とルーパーの間の糸くずやほこりを付属のブラシで取り除いてください。
- 2** 上の図で示した箇所に1～2滴注油してください。
- 3** 汚れた箇所は柔らかい布で軽く拭き取ってください。

4. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう

こんなときには	原因	対処	参照ページ
ミシンが回らない場合	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	6
	電源スイッチが“OFF”の位置にある。	スイッチを“ON”の位置にセットします。	6
縫い目がとぶ場合	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	10
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	10
	針が針止めのいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しくつけ直します。	10
	糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	11~13
	糸調子が弱すぎる。	正しく調整します。	20
	送り歯やメスユニット内に糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	28
針が折れる場合	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	10
	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	—
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	10
	針が針止めのいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しくつけ直します。	10
	押えが正しく取り付けられていない。	正しくつけ直します。	9
糸が切れる場合	糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	11~13
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	10
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	10
	針が針止めのいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しくつけ直します。	10
	糸調子が強すぎる。	正しく調整します。	20
	糸案内棒が上まで伸びていない。	糸案内棒をいちばん上まで伸ばしてください。	7
縫い目の調子が悪い	糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	11~13
	糸調子が合っていない。	正しく調整します。	20
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	10
	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	—
	押えが正しく取り付けられていない。	正しくつけ直します。	9
生地が縮む	糸調子が合っていない。	正しく調整します。	20
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	10
	差動送りを使用していない。	差動送りダイヤルを調節します。	17
波打ち	差動送りを使用していない。	差動送りダイヤルを調節します。	17
	押え圧力が強い。	押え圧力ダイヤルを調節します。	17

5. 押えについて

まつり縫い押え (1mm用)

1本針3本糸 (左針使用)

使用針: 左

縫い目ダイヤル: 「3」 - 「5」

かがり幅ダイヤル: 「6」

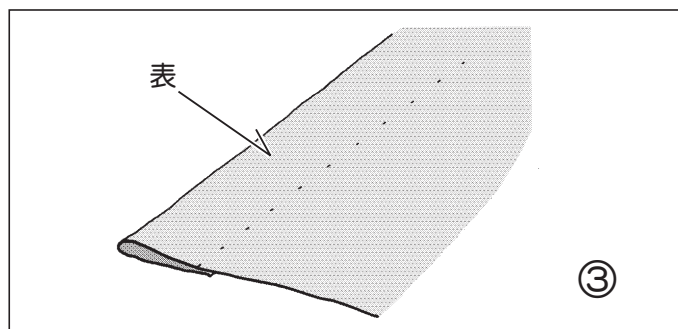
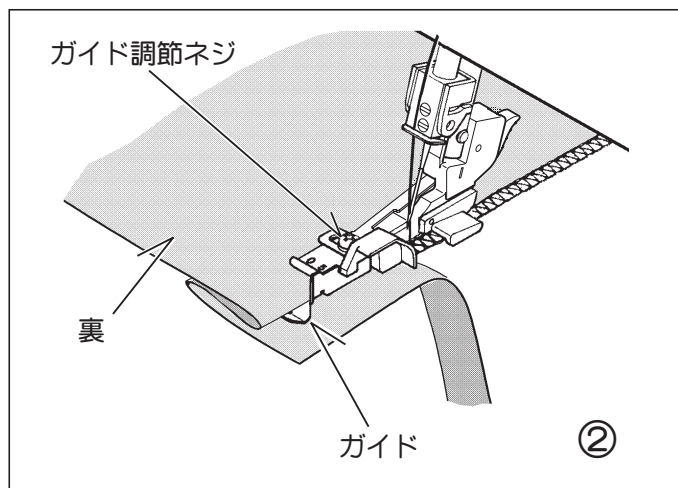
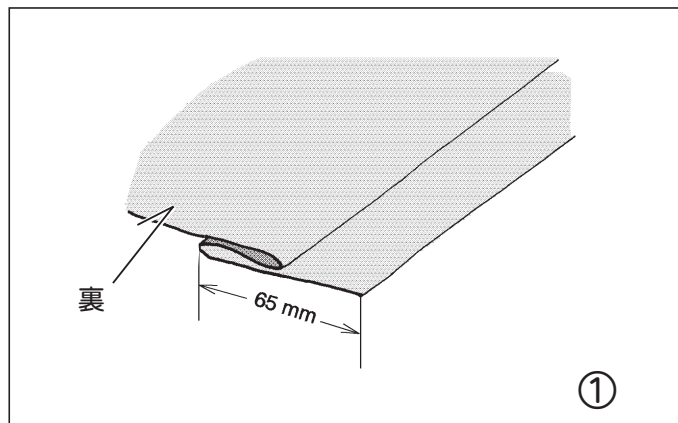
差動送りダイヤル: 「1」

可動メス: 要 針板爪: 要

厚地から薄地まで、布の裁断、裁ち目かがりと同時にまつり縫いが出来ます。

まつり縫い押えには2つのサイズがあります。薄地あるいは普通地には、0.5mmの押えを使用し、普通あるいは厚地には1mmのまつり縫い押えを使います。

布の折り山が押えのガイドに沿うように布を置き、調節ネジを回し、針が折り山をわずかに刺すように縫っていきます。

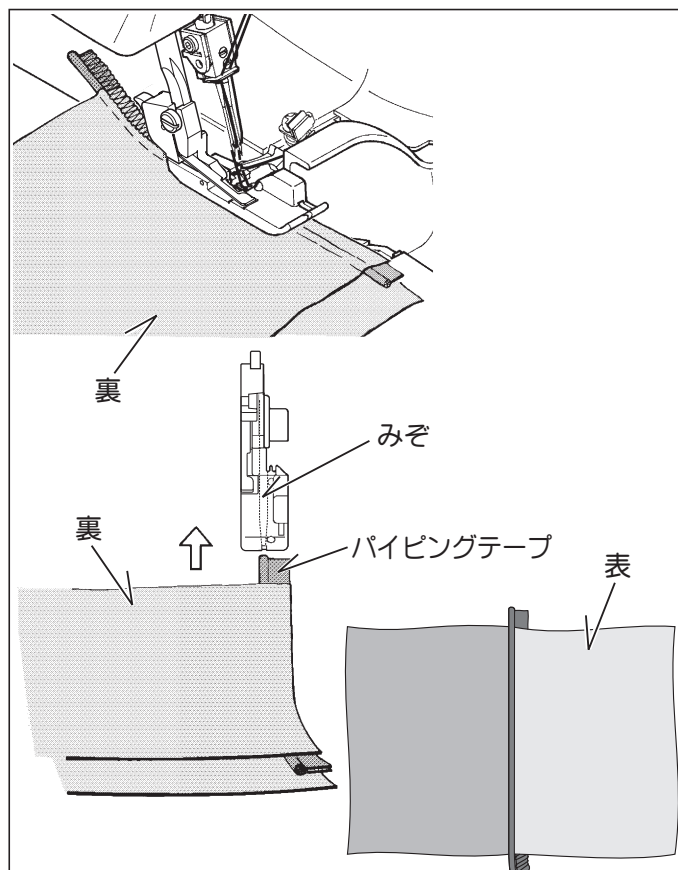


※ まつり縫い (0.5mm用) は別売り付属品です。

パイピング押え

2本針4本糸 / 1本針3本糸
使用針：左・右（2本針4本糸）
左（1本針3本糸）
縫い目ダイヤル：「3」-「5」
かがり幅ダイヤル：「6」
差動送りダイヤル：「1」
可動メス：要 針板爪：要

パイピングが簡単に出来ます。
パイピングテープのみを少し縫った後、パイピングテープの上下に布をはさみ、コード部分を押えのみぞに入れながら縫っていきます。えり、ポケット等の飾りに使います。



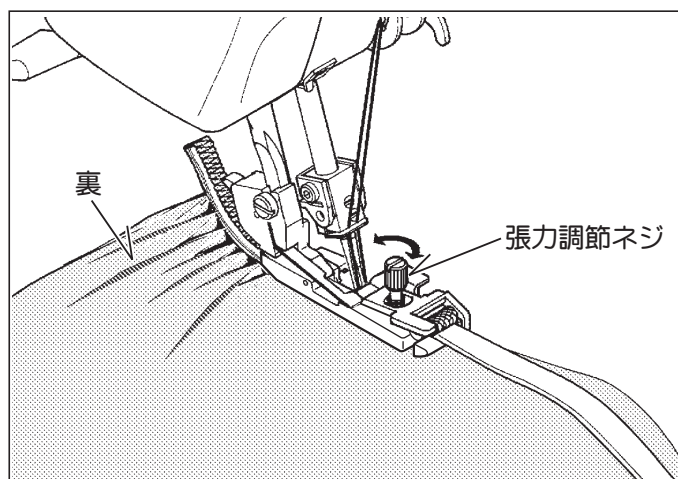
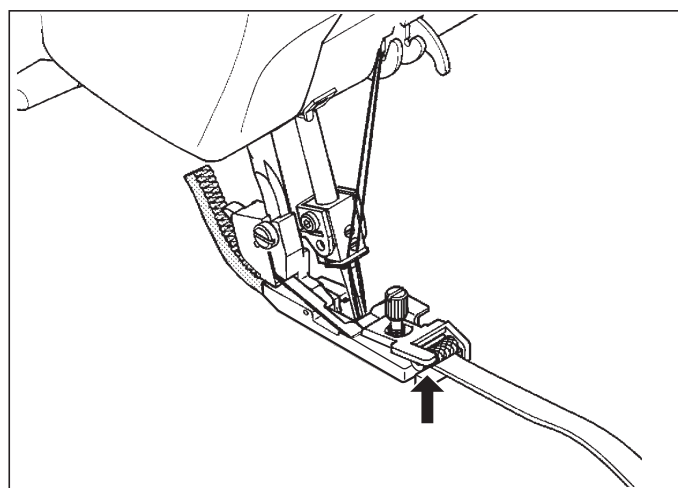
ゴム付け押え

2本針4本糸
使用針：左・右
縫い目ダイヤル：「4」-「5」
かがり幅ダイヤル：「6」
差動送りダイヤル：「1」
可動メス：要 針板爪：要
※ ゴムテープ幅は最大1cm

衣服の裾などのゴムテープ付けが簡単に出来ます。ゴム張力調節ローラーが付いているので、面倒な手作業を必要とせず、均一で美しい仕上がりが得られます。

ゴムテープを少し縫った後、布を押えの下に入れ一緒に縫います。

ギャザー量は張力調節ネジで調整します。
ネジを強く締めるとギャザーは大きくなり、弱くするとギャザーは小さくなります。
必ず試し縫いをしてください。



ギャザー押え

2本針4本糸 / 1本針3本糸

使用針：左・右（2本針4本糸）

左または右（1本針3本糸）

縫い目ダイヤル：「4」-「5」

かがり幅ダイヤル：「6」

差動送りダイヤル：「1.5」-「2.0」

可動メス：要 針板爪：要

最大のギャザー量を得るには

縫い目ダイヤル：「5」

差動送りダイヤル：「2.0」

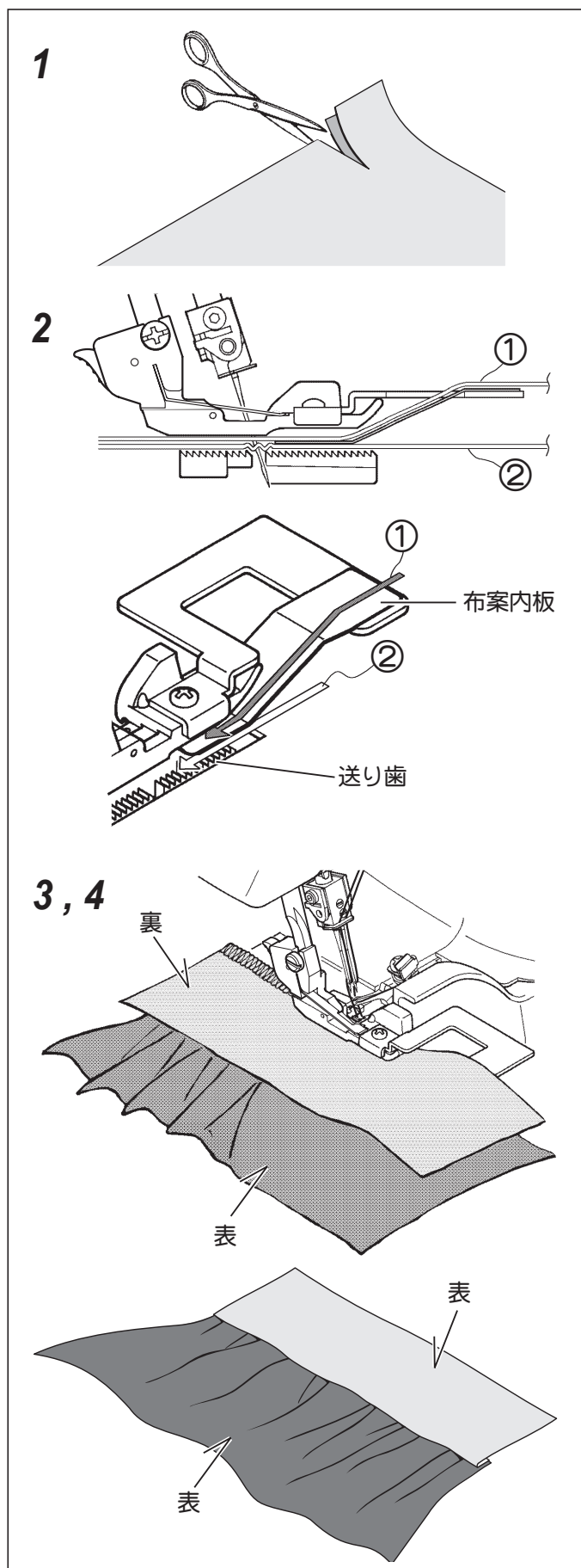
2枚の布を同時に入れて、下側の布だけギャザーを寄せながら縫い合わせることが出来ます。

1 2枚の布の端から1.5cmの所を4cmほどはさみで切り込みを入れます。

2 ギャザーする方の布②を押えと送り歯の間に差し込み、もう一枚の布①を布案内板と押えの間に入れます。切り込み脚部分は押えのコの字部分に差し込みます。

3 プーリーを手前に回して4-5針縫い、2枚の布に正常に縫いが形成されるか確認します。

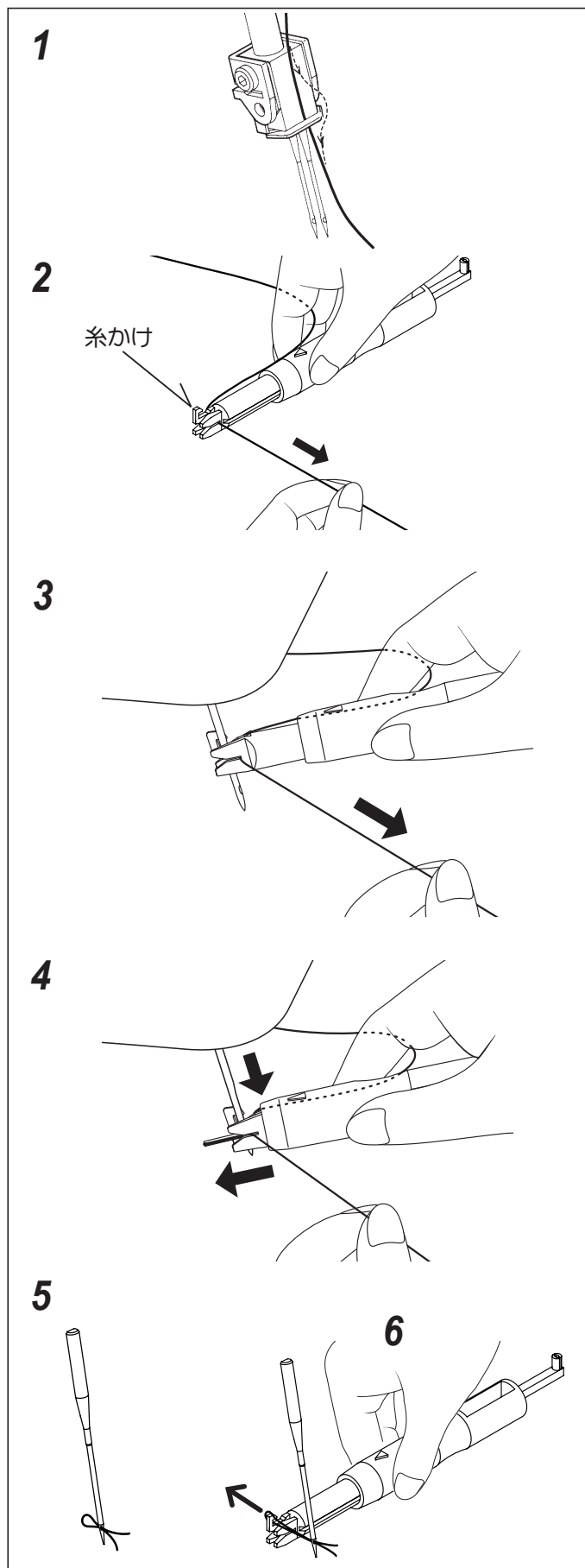
4 両手で布を案内しながら縫っていきます。下の布が上の布より早く送られて、ギャザーが出来ます。



6. 別売り付属品

糸通し器

- 1** 針棒糸案内に図のように糸をかけます。
プーリーを手前方向に回し、針を最上点に上げてください。糸を10cmほど引き出して、押え上げを下げます。
- 2** 糸かけが上になるように糸通し器を持ちます。
左手に糸を持ち右手の人差し指で糸を引っ掛け、水平方向のみぞに右から左へ糸を通します。
- 3** 糸がたるまないように左手で引っ張りながら、針の上部に糸通し器の垂直方向のみぞをセットします。
- 4** 糸通し器を軽く押しながら下方方向にスライドさせ、針穴に糸通しカギが通るところで止めます。
- 5** 左手をはなしゆっくりと針穴から糸通し器を手前に引っ張ると、糸が輪になって針穴に通ります。
- 6** 輪に糸かけを引っ掛け、糸を向こう側に引っ張り出します。



アフターサービス

◆ 修理・部品のご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。◆

保証書について

保証書の内容をよくお読み頂き、大切に保管してください。

ご購入の際、保証書にお買い上げ日・販売店名などの記載がされてあるかどうかをご確認ください。
無料修理の保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
修理については、お買い上げの販売店、または下記のお客サポートへお問い合わせください。

ご相談・修理について

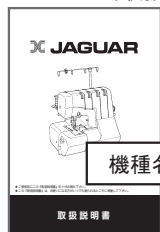
ご相談頂く前に下記の「ミシンの調子が悪いとき」や「よくある質問」をご確認ください。

ジャガーミシンホームページ内の「よくある質問」・・【URL】 <http://www.jaguar-net.co.jp/>
取扱説明書の29ページ「ミシンの調子が悪いとき」も、ご参照ください。

それでも解決しない場合

お問い合わせ頂く前に以下の事をご確認ください。

- 1 **機種名**・・事前にご確認頂きますと、スムーズにご案内する事が出来ます。
(取扱説明書の表紙、ミシン本体背面の銀色の機番プレートをご覧ください。)



- 2 **保証書**・・お買い上げ日、販売店名など記載された保証書をご用意ください。

メールでのお問い合わせ・・下記のいずれかで、お問い合わせ頂けます。

【ジャガーミシンホームページ】お客様サポート ➡ ✉ お問い合わせフォームから
【メールアドレス】 info@jaguar-net.co.jp

お電話でのお問い合わせ

【ご相談窓口専用フリーダイヤル】 ☎ 0120-00-1137
【営業時間】 平日 9:00 ~ 17:00 【休業日】 日・祝日及び夏期・年末年始

部品注文

部品注文について

ホームページ・メールまたはフリーダイヤルからご注文頂けます。

- ◆ ジャガーミシンホームページ

【URL】 <http://www.jaguar-net.co.jp/>

ジャガーミシン

検索

- ◆ 電話注文・・上記のご相談窓口へお問い合わせ後、以下の手順でお振込ください。

1 ゆうちょ銀行窓口に備え付けの、青枠の『払込取扱票』をご使用ください。

2 ①~④までの必要事項を記載の上、窓口にてお支払いください。

① 口座番号・・・00930-6-153569

② 口座名義・・・ジャガーインターナショナル

③ 通信欄・・・ミシンの機種名・注文部品名

④ お客様ご住所(アパート・マンション名まで)・お名前・お電話番号

※ 恐れ入りますが振込手数料はお客様負担となります。ご理解賜ります様、お願い致します。





株式会社ジャガーインターナショナルコーポレーション

〒570-0011 大阪府守口市金田町2丁目55番32号

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-00-1137

電話 06-6900-1963

FAX 06-6902-0433

E-mail info@jaguar-net.co.jp

ホームページ <http://www.jaguar-net.co.jp/>

公式販売サイト(ジャガーソーイングストア) <http://www.jaguarstore.jp/>

